

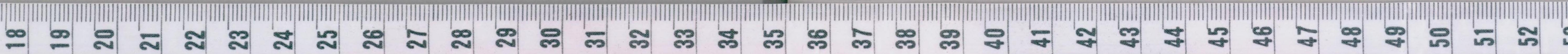
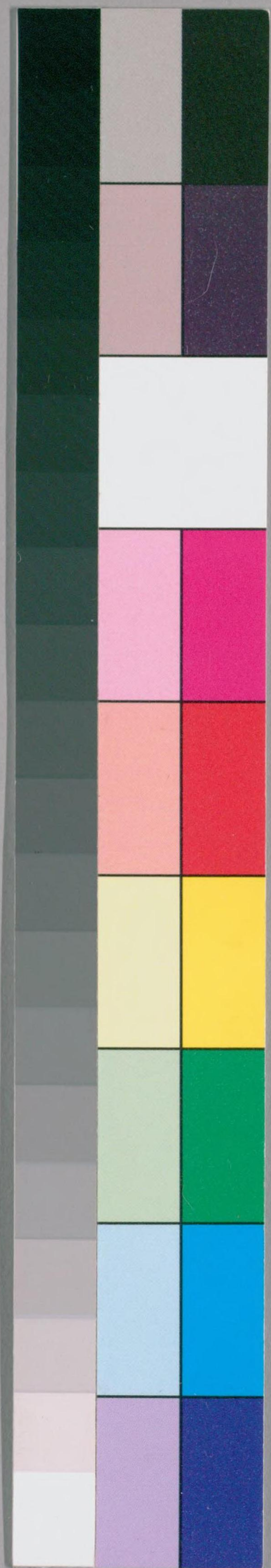
怡顔齋介品

下

共
丁
一

特7
291

尾張伊藤氏記



特7-291

伊藤大郎



怡顏齋介品目錄下

螺類

螺螄

流螺身香螺

鸚鵡螺

馬蹄螺

龜鼈類

龜

瑇瑁

雜類

田螺

米螺

拳螺

紅螺

綠毛龜

梭螺

蓼螺

相思螺

鼈

吹螺

鈿螺

研螺

鼈



介品

卷下目錄



貝子 即海貳 海膽 石榼 沙筋

沙蠶 泥笋 海蛇 海葵 附海盤車

和品

香箸貝 松ノ皮貝 一ツ貝 木葉貝

孔雀貝 鶉貝 鬼貝 筆貝

朝顔貝 卷貝 山椒貝 葛籠貝

芋貝 露貝 尤々羅貝 キサゴ

茶碗貝 即鳥貝 物アラ貝 鶉貝

章魚船 夜光 文殊貝 塩吹貝

梭貝 御巫蔓 茗荷貝 ヨメカ皿

アヤメ貝 菊貝 初茸貝 シトロ貝

思貝 巾着貝 絹巻貝 ミヤシロ貝

縮笠貝 枕貝 山鳥貝 寒菊貝

鳴戸汰螺 ビラシ貝 目クサリ貝 ワニ貝

九穴貝 鐘木貝 羽箒貝 結貝

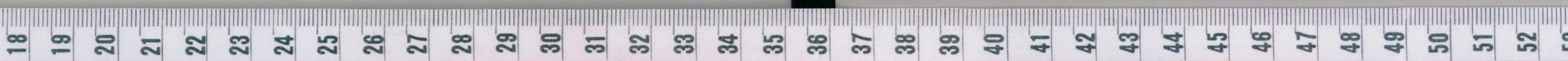
ヤトリチ入貝 螢貝 末廣貝 白貝

染羽貝 キョクヨフ貝 片身貝 身無貝

白菊貝 駒ノ角 婆貝 千イロ貝

何時貝 羽貝 忍貝 巴貝

風貝 専貝 錦貝 鏡貝



冬ノキ貝 釜貝 八塩貝 塩津貝
ミル貝

介品下目録 終

怡顔齋介品下

平安 松岡玄達成章 撰

門人

甲賀敬元尚之
今枝榮濟允明
吉見潤英叔

同校

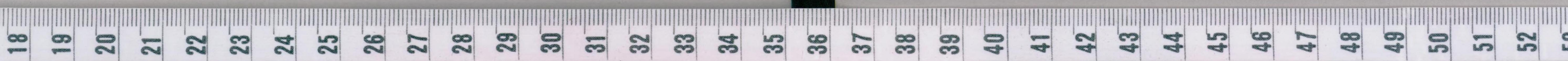
螺類 十四種

螺螄

達按スルニ螺螄俗ニ河ニナト云フ又轉ノイナ
ミナト云フ村落小渠中ニ生ス或云此物螢火



介品 卷下



ニ化ス腐草ニ限ラスト今テ審ニスルニ石蠶多ク螢火ニ化ス又味噌汁ニテ煮食フ児枕痛ヲ治ス

田螺 邵武府志曰、田螺生水田中、狀類蝸牛、而殼尖長、大如人拇指、漳州府志曰、田螺又有生池潭中者、名石螺、○達按スルニ田螺俗ニ田ニシト云フ水田中ニ生ス狀梭螺ニ似テ小シ肉中珠ヲ含ムアリ又肉ヲ取り搗泥ニシ破石ヲ續クニ永ク離レス

梭螺 漳州志曰、通志梭螺殼細長、文如彫鏤、

味佳、浦志名梭尾螺、又有一種名吹螺、一名泥螺、○達按スルニ梭螺即チ小兒弄玩スル所ノバイ也吹螺ハ俗ニ云フ法螺也下ニ出ス興化志ニ梭尾螺泥螺分ケテ條ヲ出ス

吹螺 三才圖會曰、外國多吹螺、林邑蠻吹之、以即戎古人用以為門戶飾、欲使閉藏當如此固密也、○達按スルニ吹螺ハ修蟻者及軍中吹所ノ法螺也法螺ノ名ハ法華經ニ出ツ俗ニ梭尾螺ヲホラト為ルハ誤也

流螺 即香螺 ○達按スルニ流螺俗ニ長ニシ又

介品 卷下



夜啼貝ト云フ九ツ螺ノ先キ長キヲ通メ流
螺ト云フ禮記ニ敦牟厄匝ハ有レ流ト流ハ片
口ノ鼻也香螺ノ名ハ福志ニ出ツ

米螺 福州府志曰米螺小粒如米 ○達按

スルニ米螺紀州ニテ米粒貝ト云フ形田螺ニ
似テ至テ小シ長サ半寸許米粒ノ如シ河

蓼螺 漳州府志曰通志蓼螺大如拇指有刺
味辛如蓼 ○達按スルニ伊豫佐渡ニ多シ

形拳螺ニ似テ味辣ノ食ハレス故苦螺ト云

フ人溺ヲ以テ洗ヘハ苦味忝ル

鈿螺 福州府志曰鈿螺光彩如鈿可飾鏡背

○達按スルニ鈿螺俗ニヤサラ貝ト云フ安藝ノ

廣島海中ヨリ出ツ形圓扁ニメ厚一種光

滑ニメ青紅暈アル者ヲ江戸ヤサラト云フ

螺鈿金鈿ノ用ニ入ル故ニ鈿螺ト名ク

鸚鵡螺 格古要論曰鸚鵡杯即海螺蓋出廣

南土人琢磨或用銀或用金而定作酒杯故

名曰鸚鵡杯 ○達按スルニ鸚鵡螺和ニ又

鸚鵡貝ト云フ形蛸船貝ニ似タリ世上靈寶



ニ九、穴ノ貝ト云テ觀スル者是也九穴ノ貝ハ
イタラ貝也鸚鵡螺ニアラス

拳螺 ○達按スルニ拳螺俗ニサバイト云フニ
種アリ一ハ尋常ノ者一ハ鬚ニ毛無シ佐
渡ニテメクラサバイト云フ本邦ニ榮螺ヲ
サバイトス俗字也

相思螺 海槎餘録曰相思子生海中如螺之
狀而中實類石焉大比至粒好事者藏置篋
笥積歲不壞亦不轉動若置醋一盃試投其
中遂移動盤旋不已 閩部疏曰莆田青山

海濱産小白石狀似杏仁而劈兩瓣腹有文
如蟲向無知其異者兵人守青山於沙石中
拾之歸試貯之醞碟中兩石離立相對須臾
能自動兩相迎合名之曰雌雄石亦曰相思
子惟醞則行易他物則否竟不解所以志所
不載也 ○達按スルニ相思子一名即君子
俗ニガンガラ又酢貝ト云フ殼拳螺ニ似テ至
テ小ク女拳螺ニ似タリ其鬚也尼崎人云
フ小拳螺ニ似タル貝アリ刺無シ生ナル
時ハ色黒シ枯レハ白ニ變ス其鬚也碟ニ酢

ヲ入レ地、罨ヲ兩箇投メ相對スレハ旋轉メ
一處ニ合フ通、雅ニ氣血有ル者ノ如ク云ヘリ
非也、磔ノ邊ハ高シ、酥ニテ收斂メ底ノカタヘ
轉シ下ル也、即君子ノ名ハ五雜俎ニ出ツ、勢
州ニ見紀州熊野浦ニ多シ

研螺 福州志曰、紫背螺、紫色有斑點、俗謂之

研螺 ○達按スルニ研螺俗ニツメタ貝ト云
フ、越後新瀉ニテスリ貝ト云フ、此貝形圓ニ
メ底尖ラス、殼厚メ肌コマカ也、口内へ曲リ
テ底尖ラス、帷子袴紙等ヲ揩磨クニ佳ナリ

又室町殿日記ニ細川幽齋、豊臣太閤ノ前
ニ侍ラレシニ或ル大名ヨリ牡蠣生鼠腸ツ
メタ三種ヲ献ス、太閤此三肴ニ付テ一首
セヨトアリシニ幽齋即チカキクラシフル、白
雪ノツメタサヲコノワタメシテアタメソスル
ト詠セラレシカハ太閤及ヒ満座大ニ感セ
ラレシトソ、今ハツメタヲ下品ノ物トメ食セ
ス古ヘハ高貴人モ賞翫セラレタリト見ユ
馬蹄螺 福州府志曰、馬蹄螺以形名、○達
按スルニ馬蹄螺四國海中ニ多シ、俗ニ馬貝



又馬爪貝ト云フ又船貝ト云フ

紅螺 ○達按スルニ俗ニ赤螺ト云フ大小二種アリ殼裏赤シ一種殼白キ者アリ

龜鼈類 五種

龜 鎮江府志曰、有山龜、有水龜、有攝龜、俗名呷蛇龜、永安寺聖井中、産綠毛金線龜、○達按スルニ龜俗名カメ 本邦種類少シ錢龜アリ至小ニメ錢ノ如シ山龜アリ甚大四五尺能ク木ニ升ル海龜アリ今京師藥肆店

ニ死セル大龜殼ヲ出メ招記トス是也綠毛龜ハ下ニ出ス

綠毛龜 華夷虫魚考曰、綠毛龜背有綠毛、浮水中則泛起壓置壁間、数年不死、能避飛塵至冬多悶死 ○達按スルニ綠毛龜背上綠毛アリ水中ニ浮ヘハ毛茸々トメ色深緑ニメ海苔ノ如シ水ヲ出レハ色變メ山城州嵐山ニ間有リ然レ厄稀ナリ又米泔水ヲ以テ尋常ノ龜背ニ塗リ半月ニメ綠毛ヲ生スト綠毛龜俗ニ篋龜ト云フ下ノ鳥龜又篋龜ト云フ與



地別也

鼈 邵武府志曰、鼈俗呼水雞、亦呼團魚、其形與龜相類、但龜甲裏肉、鼈肉裏甲、四邊垂者為裙、乃食品之珍者、○達按スルニ鼈俗ニスツホニ又トウカメト云フ、龜ニ似テ背ニ紋理ナク、^{緑肉}甲ヲ裏ム、又能ク人ヲ食フ、邵武志一名水雞ト蟾^キ蝾モ亦水雞ノ名アリ、鼈卵大サ金橘^{キンカン}ノ如ク、色モ又如^レ地食者尤珍トス、鼈本邦惟一種而已、諸書數種ヲ出ス、今左ニ記メ考索ニ備フ、邵武志云、鼈胸前有

軟骨、與鼈相類、其名曰醜^ト食^フ、當^レ剔^ク去^ス、又鼈腹下成王字、亦不可食、寧波府志云、石鼈、錦繡萬花谷云、朱鼈、高州海中多、朱鼈狀如肺、有四眼六脚而吐^レ珠^ク、

鼈 ○達按スルニ鼈鼈ニ似テ腹正赤色ナリ、人ヲ害スルノ鼈ヨリ甚シ、長門ニ多シ、土人赤腹ト云フ

瑇瑁 華夷鳥獸考曰、瑇瑁、龜類也、出廣南、身似龜、首鬚如鸚鵡、腹背甲皆有紅點斑文、大者如盤、應劭曰、雄曰瑇瑁、雌曰紫螭、○達



按スルニ瑤瑁唐土ヨリ來ル 本邦ニ無シ長
門ニ篋カメ龜一名鳥トリ龜ト呼フ者アリ形龜ニ
似テ首イデ鵠首ノ如ク背毛鳥ニ似タリ甲重疊
メ篋ノ如シ色黄ニメ斑文アリ亦玳瑁ノ類
ナリ

雜類 八種

貝子 卽海貳 華夷珍玩考曰海貳被人採積
如山淹爛肉轉賣暹羅榜葛刺國當錢使
用ス 吳氏本草曰貝子小者小兒握之治ス驚

俗呼壓驚螺 ○達按スルニ貝子俗ニ子ユ安ヤス
貝カイ又齒ハ貝カイ氏云フ狀身無貝ナシカイニ似テ兩方ヨリ
卷キ合ヘルロニ齒キザ刻アリ五色錦紋ノ者尤
貴シ上古ハ蚩ヲ以テ金錢ニ代フ珂ハ子安
貝ノ白色潔白ナル者也相貝經二十七種ノ
貝子ノ名ヲ出ス 本邦ニモ十種許アリ
錦紋ノ者ハ好事ズノ士穴ヲ穿ウガ千紐ヒモヲ通メ
荷ツケ苞ケ墜トス産婦握レハ産シ易シト
海膽 福州府志曰海膽殼圓ニメ如盃外結密刺
內有膏黄上人以テ為醫 ○達按スルニ海膽



和ニ海丹ト云フ雲丹海栗ノ字ヲモテユル
ハ非ナリ海栗ハ文蛤ノ黄黒色ナルモノ
也生ナル者ハ殻ニ密刺アリ空殻ノ海水ニ
漂轉スル者ハ刺カサ脱カサメ甲カサニ似タリ故ニ殻ヲ
脱カサ貝ト云フ阿波ニテラキノクワレスト云海
膽佐渡ニテカゼ貝ト云フカゼハ海膽ノ古
名ナリ催馬樂ノ歌ニミサカナニハ何ヨケレ
ハビサメラカカゼヨケレト云ヘリ海膽シホセウ將シホセウ西
ハ越前ヲ最トス海膽内ニ肉無シ皆腸ノミ
也遠州荒井ニシホカゼト云フ者アリ形

海膽ニ似テ少シ異ナリ
石榼 福州府志曰石榼形圓色黄肉紫有刺
人觸之則刺動揺 ○ 達接スルニ江戸品川
海中ニ海脱肛ウミタヌコウアリ江戸ノ人云フ海膽ニ似
テ殻圓ニメ脆ヒロク外ニ毛アリ青キ紐ノ如キ
者ビラクトメ海水面ニ浮フ人ノ足聲ヲ聞
ケハ即千穴へ入ル此物海濱沙地ニ穴メ居ル
乾肉沙ウミ嚙ニ似タリ此レ即チ石榼也
沙筋 福州府志曰沙筋長尺餘其狀如簪故
又名塗釵嶺表録異云生海岸沙中春時吐

苗其心若骨白勁可為酒籌 ○ 達按スルニ
 賀州本吉海邊ニウミヤナキト云フモノアリ
 白色長サ一二尺細柳條ノ皮ヲ忖リタルカ
 如シ肉外ニ點ス人ノ足音ヲ聞ケハ沙中ニ
 縮リ入ル又タラノ鞭ト云モノアリ淡紅白
 色皆一類也

沙蠶 閩書曰沙蠶生汐海沙中如蚯蚓泉人
 羨謚曰龍腸又有土鑽似沙蠶而長 福州
 府志曰沙蠶似土笋而長 ○ 達按スルニ譯
 傳雜字簿ニ沙蠶ヲウミタケトス誤也此物

海泥中ニ生ス狀テ蚯蚓ノ如シ甲アリ佐渡ニ
 テ翁シイガヒナカ背ト云フ者ナリ

泥笋 八閩通志曰泥笋其形如笋而小生泥

沙中 ○ 達按スルニ泥笋海泥中ニ生ス形チ大

二三寸ニ過ススキ縦筋アリ一節一節横ニ約

アリ螺ニ似テ色薄赤シ

海蛇 ○ 達按スルニ北レ歌仙貝ノ濱ハカツラ是也

鎌倉ニテ蛇貝シヤカイト云フ大森ノ邊ニテヘビ貝ト

名ク

海燕ス附海盤車ラ ○ 達按スルニ海燕俗ニ章魚マユ



枕ト云フ敦賀小濱ニテ手クサリト云フ形
楓葉ニ似タリ圓ニメ輕、瘧微、細毛アル者ハ
海盤車也是ヲ俗ニ盲龜ノ浮木ト云フ尼崎
海濱沙地ニ多シ甚、腥臭其曝レタルモノハ
外皮及毛脱メ較ノ如ク文アリ其脚折レテ
形圓ナリ生ナル寸ハ五色ノ紋采アリ相馬
ニテ人手ト云フ圓ナルヲ圓座シト手ト云フ

附和品 七十二種

余介品ヲ著シ和漢俱ニ有ル者ハ引書ノ下

ニ注シ又漢土ノ書ニ無メ和ニ有ル者ヲ玆
ニ輯ム然レモ寧、壤ノ宏遠ナル豈是ニ止
ランヤ是只其聞見スル所ヲ輯ムル而已
香箸貝 ○達按スルニ丹後切戸ノ海中一種
ノ貝アリ色白ク形、箸ニ似テ長サ四五寸内
ニ肉アリ多ク、沙ニ漂、轉セラレテ沙上ニアリ
即歌仙貝中ノ香箸貝揚、枝貝也
松ノ皮貝 牡蠣ノ皮成ルヘシ
一ツ貝 波間拍ニ似テ厚シ
木葉貝 紫赤色質厚シ



孔雀貝 イ貝ニ似テ裏面アワビニ似テ光

アリ

鶉貝 梭螺ニ似テ厚ク嶋ノ如キ紋アリ斑紋

鶉ノ斑ニ似タリフチノ外へ曲レルヲ大鼓貝

ト云フ又別ニ鶉貝アリ下ニ出

鬼貝 ハ奇貝ニ似テ圓扁刺アリ

筆貝 寄居虫ニ似テ圓ク細長光アリ

朝顔貝 形圓扁ナリ大サ及ヒ狀蝸牛ト同

シ色碧ニメ光アリ牽牛花ノ色ニ似タリ甚

美ナリ但質薄ク脆メ破レ易シ紀州弱浦

ニ多ク有リ

卷貝 法螺ニ似テ狭長也流アリ色黄ニメ白

筋アリ

山椒貝 紀州弱浦ニ多シ形至テ小ク甚タ山

椒粒ニ似タリ皮色赤ク皺文山椒皮ノ如

シ

葛籠貝 簾目ニ似テ狭長ニメ質厚シ面赤

褐細横紋アリ裏面潔白ナリ

芋貝 紀州弱浦ニ多シ狀里芋ニ似タリ色

赤褐但質粗ニメ人貴重セス



露貝 形圓小ニメ色銀ノ如ク透徹玉ノ如シ但
質甚タ薄脆也一名玉貝ト云フ

左々羅貝 一名シヤクヲ貝ト云フ左々羅ノ

轉語也關東海中及ヒ阿波ノ海ニ多ク産ス

狀扁ニメ淺ク圓大ナル者ハ二寸ニ過キス質

潔ニメ堅ク光アリ外黒褐色紋脉文蛤ニ似

タリ内面淨瑩ニメ紫暈アリ内ノ四邊銘

刻アリ相合メコレヲ摩レハ聲ヲ成メ編木ノ

如シ故ニ名ク

キサゴ 即ゼバ貝肥前ニテ猫貝ト云フ

茶碗貝 即大坂左海ニテ云フ鳥貝也赤貝ニ

似テ殼薄ク表白淡紅丹後宮津ニテ茶碗

貝ト云フ肉花蛤ニ似テ色黄ナリ正二月其

肉ヲ酢ニ浸メ京師へ送り賣ル即酢ハマクリ

也坵貝鳩ニ化ス故ニ鳥貝ト呼フ其殼ヲ紙

ヲ以テ張り中ニ砂石ヲ入レ揮テ小兒ノ玩

トス

藻ノアラ貝 水中ノ藻ニアル小貝也ワレカラトハ

異ナリ形甚タセ、貝ニ似テ極メテ小ク青

黒文アリ後撰集ノ歌ニ蓮ノ葉ノ上ハツレナ



キ下ニコソ物アラカハツクトイフナレト詠セ
ル是也池澤淡鹹ヲ論セス生ス但食フニ堪ヘス
鶉貝 極メテ大圓ニテ皂十ノ如ク殼薄シ好
事ノ士内ヲ漆ヌリテ花瓶トス
章魚船 形扁ニメ殼薄ク鸚鵡螺ニ似テ圓ナ
ラス角アリ肌細ニメ光アリ甚美ナリ好事
ノ士釣花瓶トス然レモ脆メ破易シ阿蘭陀
本草ニタコ船ノ圖アリ但文字讀メス何ノ名
成ルヲ知ラス
夜光貝 大坂薬舗ニ賣ル青貝ノ下品光薄ク

殼厚シ螺鈿匠コレヲ用ユ
文殊貝 丹後宮津ニアリ形長ク頭尾上下圓
ニメ尖ラス表ニ堅筋ヒシトメクリ色薄黄白
色裏全ク紫色ニメ黒ヲ帶フ殼厚ク塩吹
貝ニ似タリ
塩吹貝 蜆ニ似テ大背隆起ス形圓シ尼崎
海中ニ多シ口邊細齒アリ裏四邊淡紫ナ
リ殼面黄ナリ
梭貝 紀州弱浦ニテ両口ト云フ上下ニ流アリ
機ヲ織ル梭ニ似タリ故ニ梭貝ト云フ長サ三



四寸

御巫蔓 ミコツル 丹後海中ニアリ 淡菜 イシクイ ニ似テ

殻無シ外ニ毛アリ石崖ノ間ニ聚リ生ス口ヲ

開ケハ陰戸ニ似タリ

茗荷貝 一名サ、イワリ形藁荷 ノウガノコ 笋ニ似テ全

躰ニ魚子 イサノコ アリ好事ノ者目貫トス 玳貝類ニ

冰ラスワニノヲク齒ヲ両ツニ開タル者也

ヨメカ皿 紀州弱浦ニ多シ雀貝ニ似タリアワビ

殻ニ多ク粘ス殻薄メ圓ク尖リ瘡痂 カサフタ ニ似タリ

アヤメ貝 形色全クアヤメノ花ニ似タリ色

紫也

菊貝 形菊花ニ似タリ

初茸貝 ハツタケカイ 是貝ニアラス海濱ノ石芝也裏切レテ

カバ色ナリ甚タ初茸ニ似タリ

シドロ貝 法螺貝ニ似テ形長ク厚シ

思貝 ラモヒ 即米螺也

巾着貝 帆立貝ノ類也

絹巻貝 紫貝ニ似テ両方ヨリ内へ向テ巻キ

片方ハ巻キ片方ハ身也

ミヤシロ貝 形極メテ大ニメ圓也色紋ゼバ貝

ニ似タリ大ナル者七八寸色青縹紋アリ

絹笠貝 殻薄ク圓扁ニメ端ニ切レアリ褐色

ニメ外赤シ

枕貝 絹巻貝ニ似テ底平也色黄白也

山鳥貝 鶉貝ニ似テ尾長ク首細ク正中張出

ツ色紫赤褐斑紋アリ

寒菊貝 弱浦ニ多シ正中空穿抜ケ全躰白

メ鬆寒菊ノ蜂窠ニ似タリ紋脈ヒント付曝

貝也

鳴戸法螺 殻厚メ螺螄ニ似タリキサアリ其

間ニ疣瘡アリ廻リ付ク色赤白雜ハル鳴

戸ニ多ク有リ又弱浦ニモアリ

ビラン貝 肥前大村ノ海中ヨリ出ツ此貝

玉ヲ含ム

目クサリ貝 越中放生津ニアリ小貝也殻外

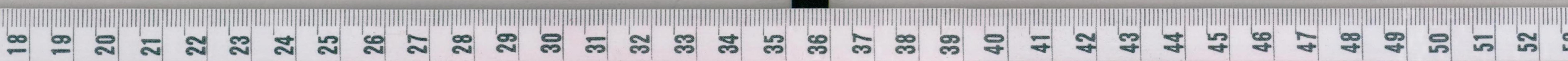
色白ク横白文アリ内面四邊淡紫色

ワニ貝 形圓大ニメ疣瘡アリ赤褐色弱浦

ニ多シ

九穴貝 イタラ貝也

鐘木貝 此貝海石ノ上ニ著テ生ス紀州ニ多シ



形丁字ノ如シ大ナル者ハ尺許ハカ小ナルハ五六寸外アワビ貝ノ皮ノ色ノ如ク薄赤ク形少シ扁長メ曲レリ

アフミ貝 即イ貝ニ似テ扁ニメ長カラス色白シ羽筵貝 即イ貝也羽貝ト一種カ

結貝 形草石蠶チヨウロキニ似テ一對アリ

ヤトリ千入貝 帆立貝ノ赤色ニ染成ス者ナリ

螢貝 形思貝ト同シ

未廣貝 帆立貝ニ似テ厚シ

白貝 忘貝ノ曝レタル者

赤羽貝 即イ貝ヲ赤染成ス者一名於々貝一名蓮貝

キヨクヨフ貝 編笠貝ニ似テ色黒淺黄白斑文アリ

片身貝 法螺ニ似テ横紋アリ

身無貝 子安貝ニ似テ厚シ但齒無シ

白菊貝 白色圓扁ニメ紋ナシ

駒ノ角 又駒ノ爪云フ形細メ圓クサキ尖リ色青白内空ナリ

婆貝 又バビ貝云フ

千イロ貝 絹巻ニ似テ紅色殼薄ク扁也

何時貝 佐渡海石上ニ生ス拳螺ノ初生ノ

如シ形小圓ニメ刺無シ色青シ塩水ニ入レ

ハ揺動シテ能ク行ク久キヲ經テ死セス或

云フ此屬ハ即酢貝也ト

羽貝 忍貝 巴貝 風貝 夷貝 錦貝 夕マキ貝 釜貝 八塩

貝 鏡貝 塩津貝 之ル貝

以上俱十二種 形状不詳 姑存其名耳

介品 和下 終

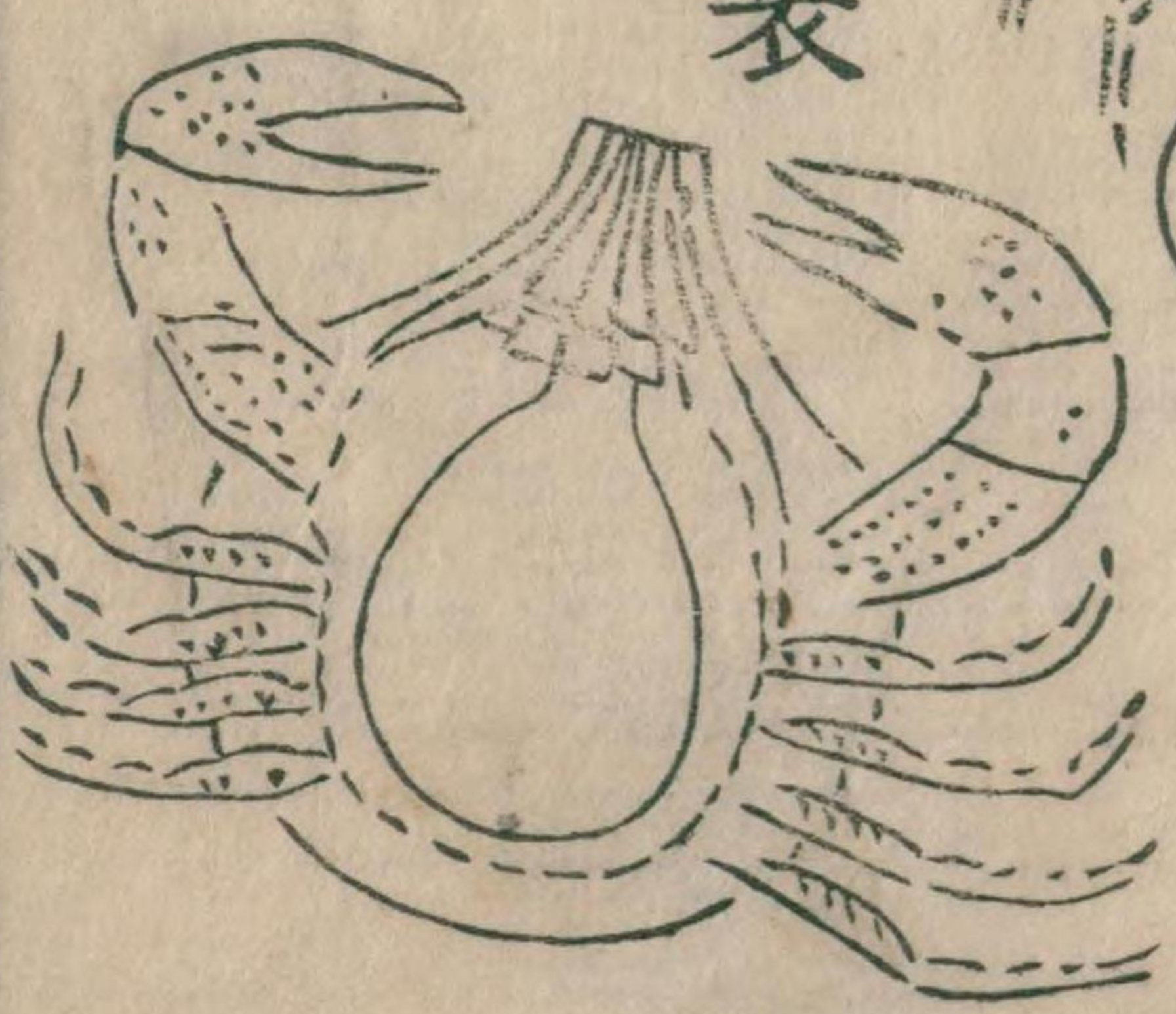
朝日蟹面



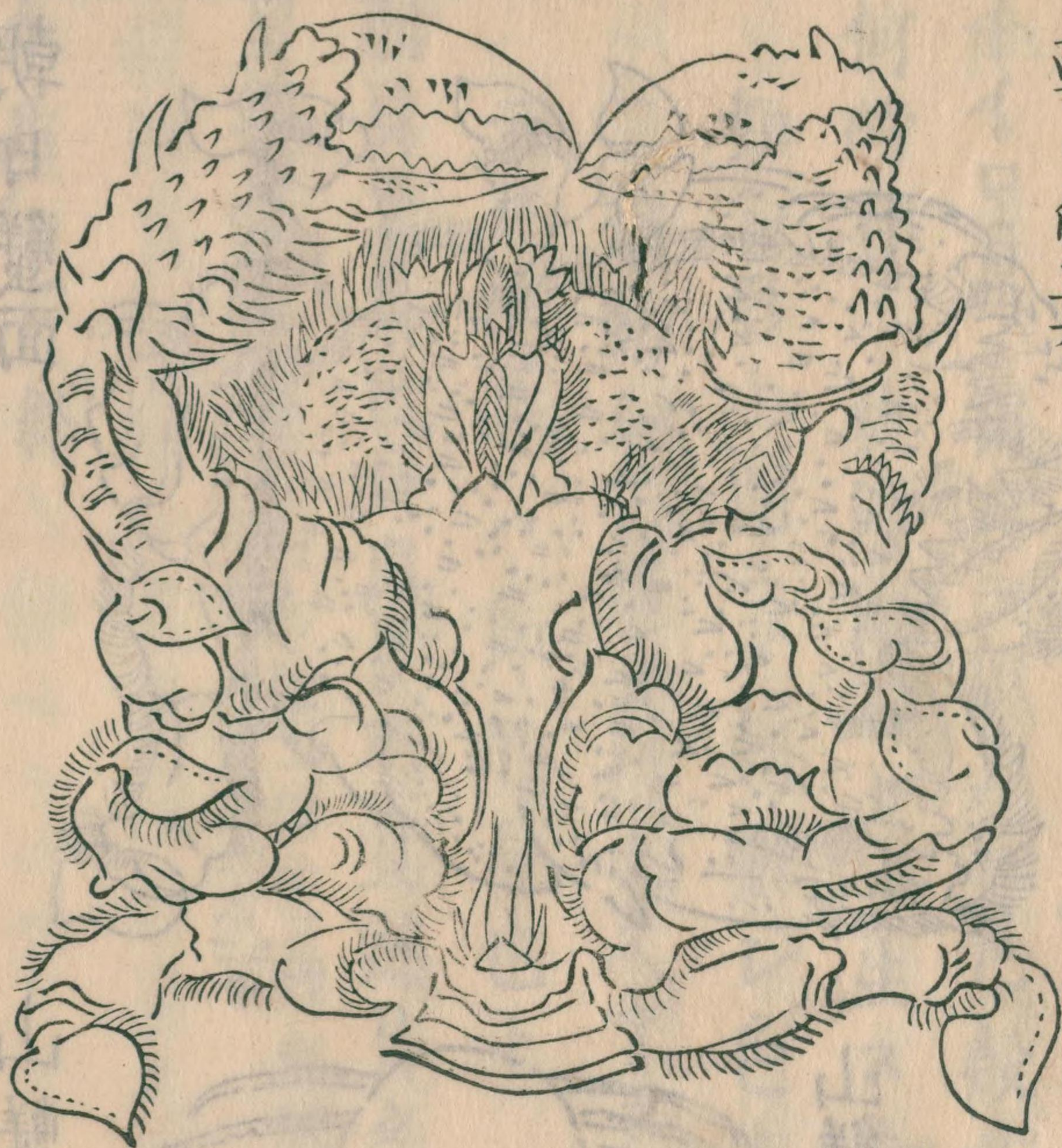
山蟹



山蟹裏



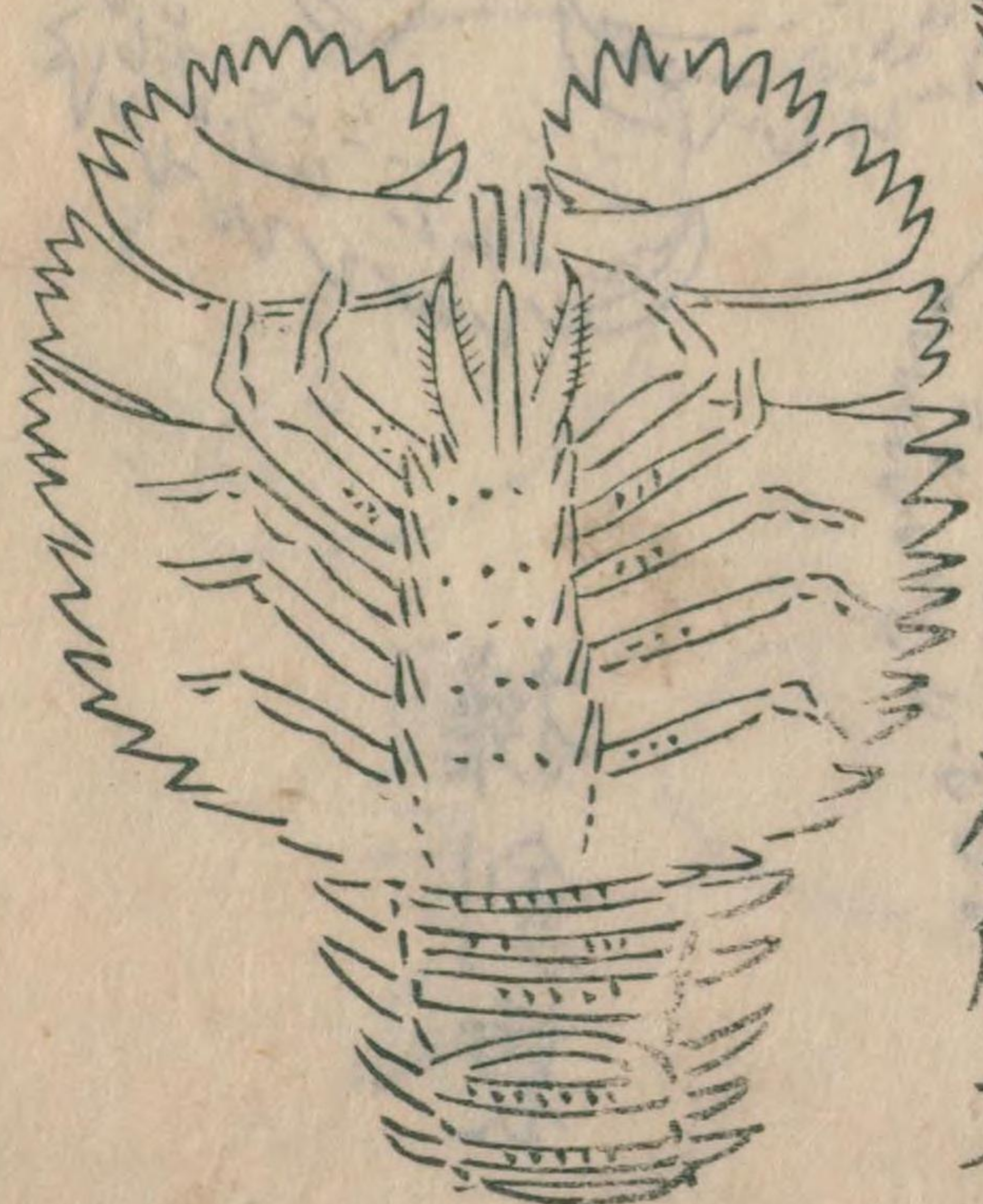
朝日蟹裏



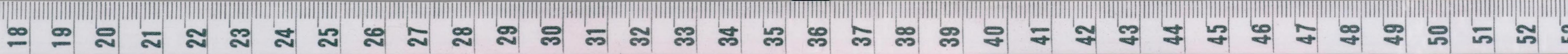
扇蟹面



扇蟹裏



千歳老



蟬蟹面



蟬蟹腹



擁劍面



擁劍腹



青蝦



貝子面

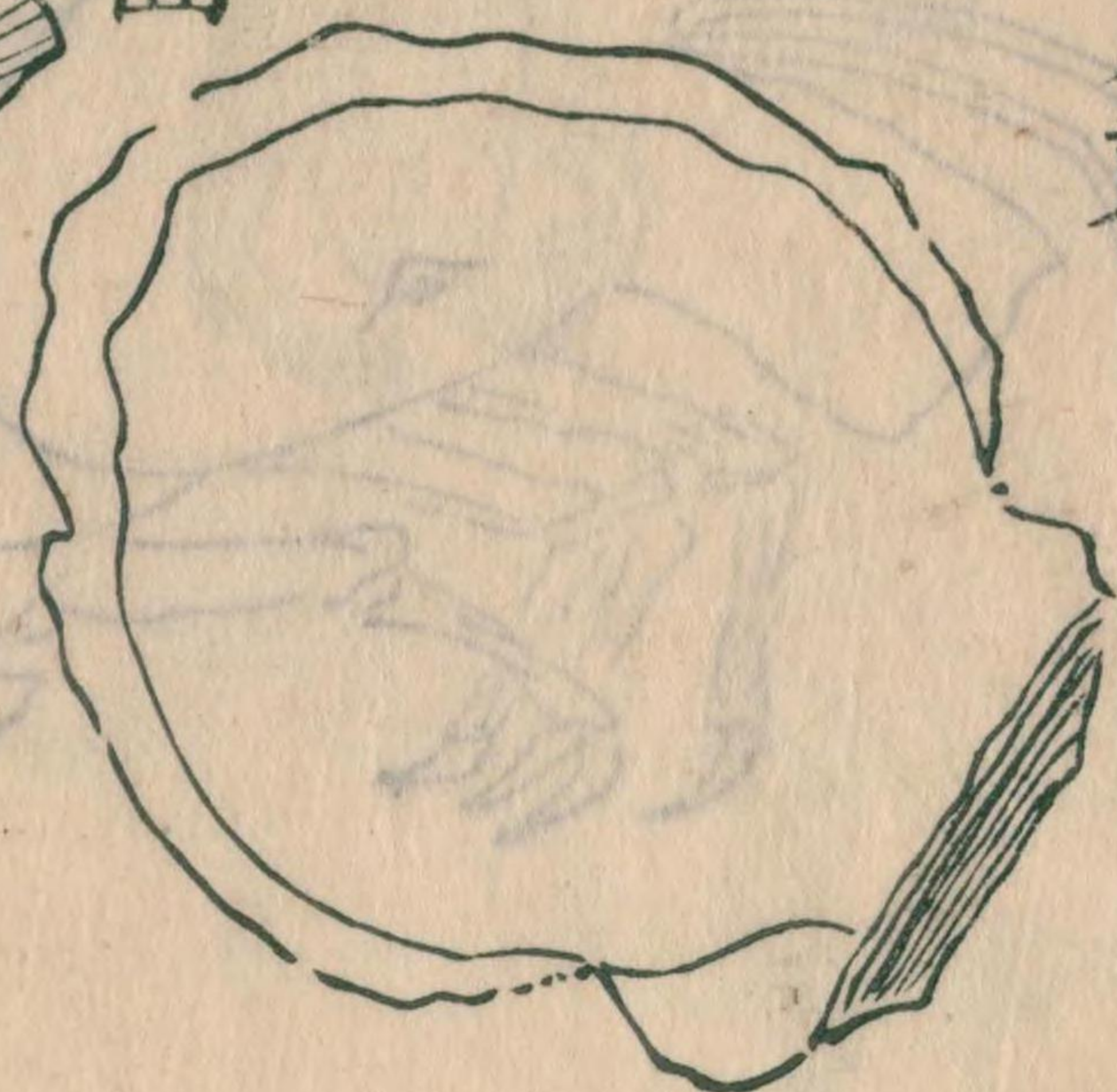
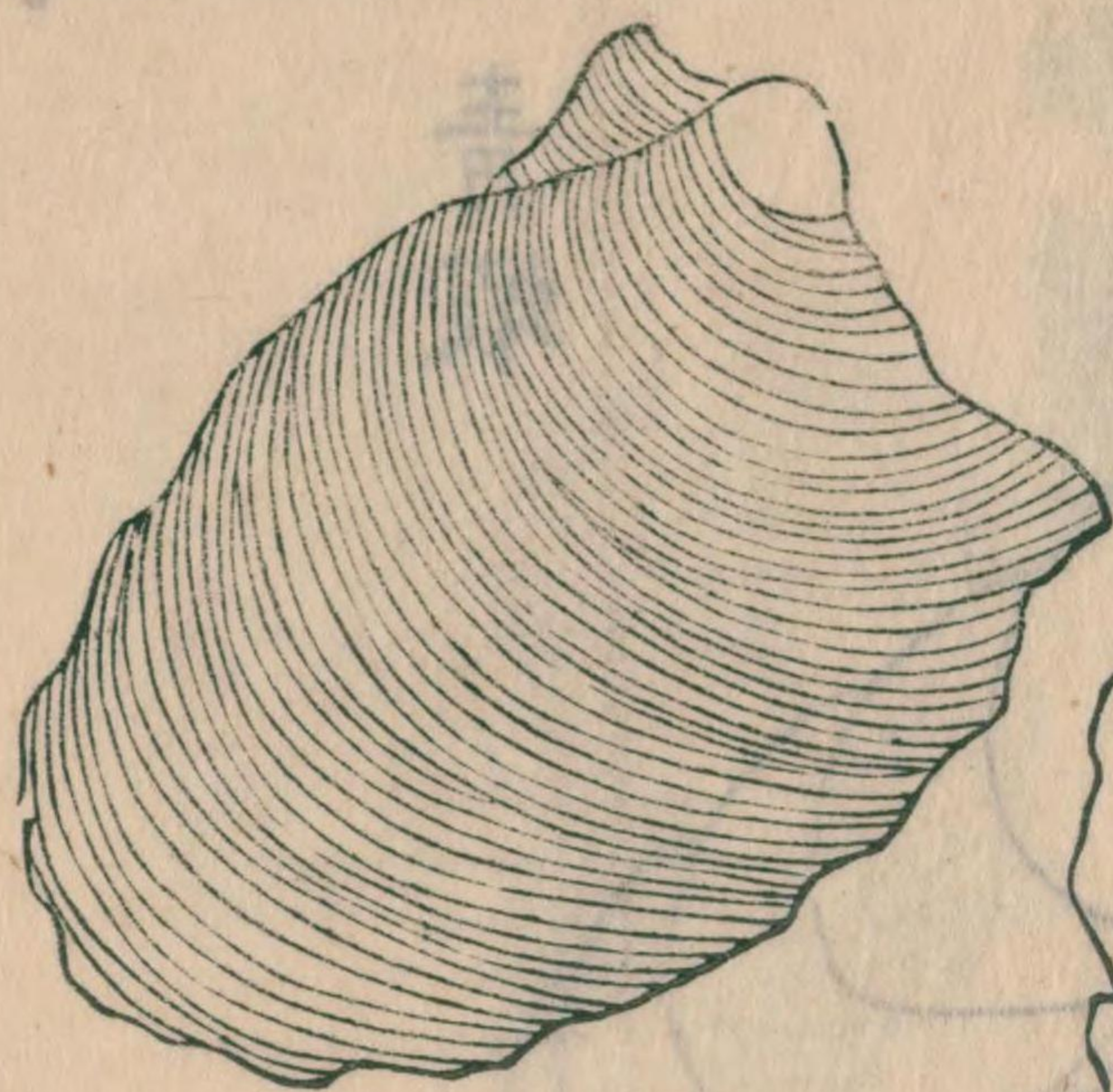


貝子腹



真珠貝裏

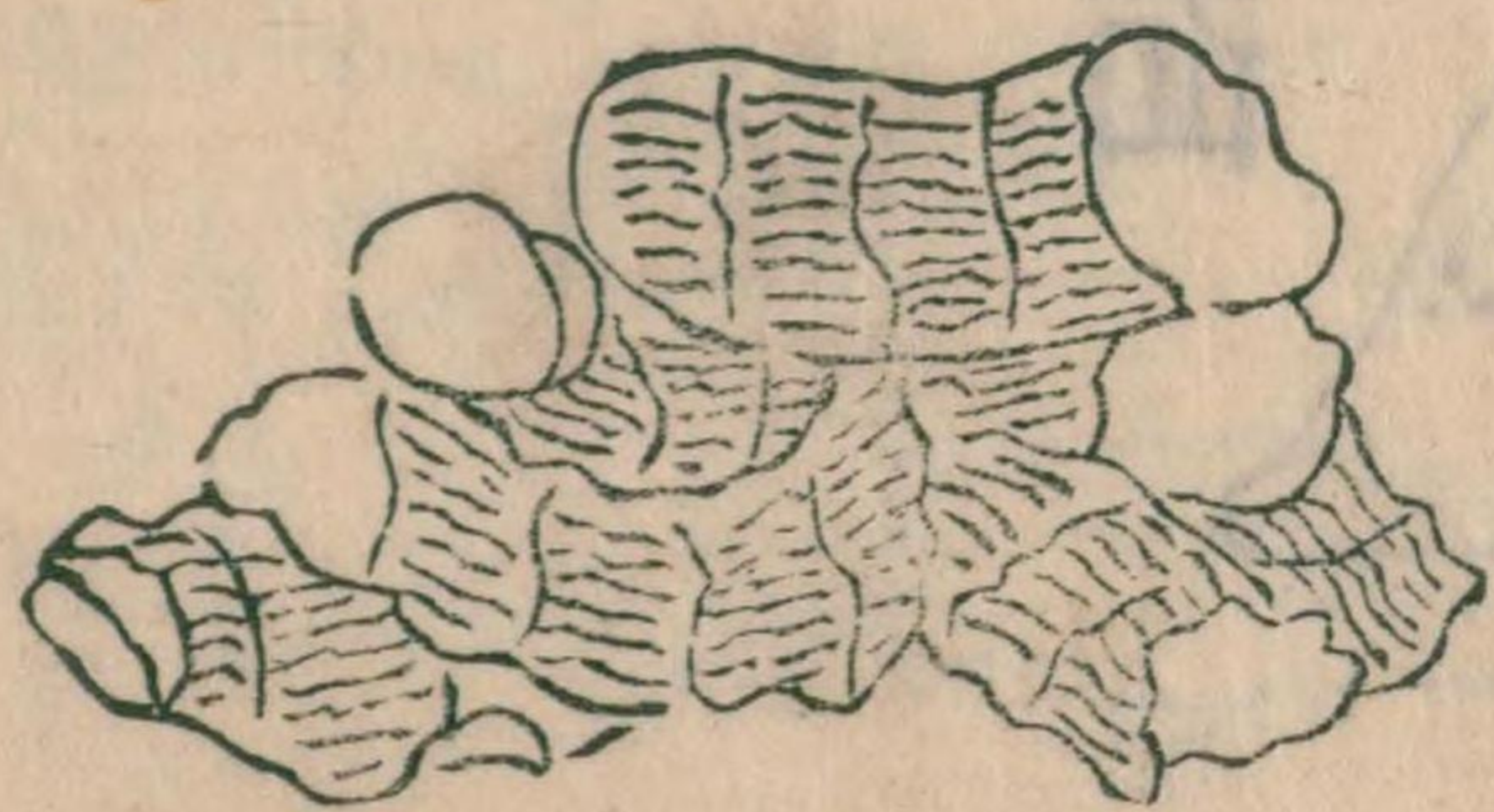
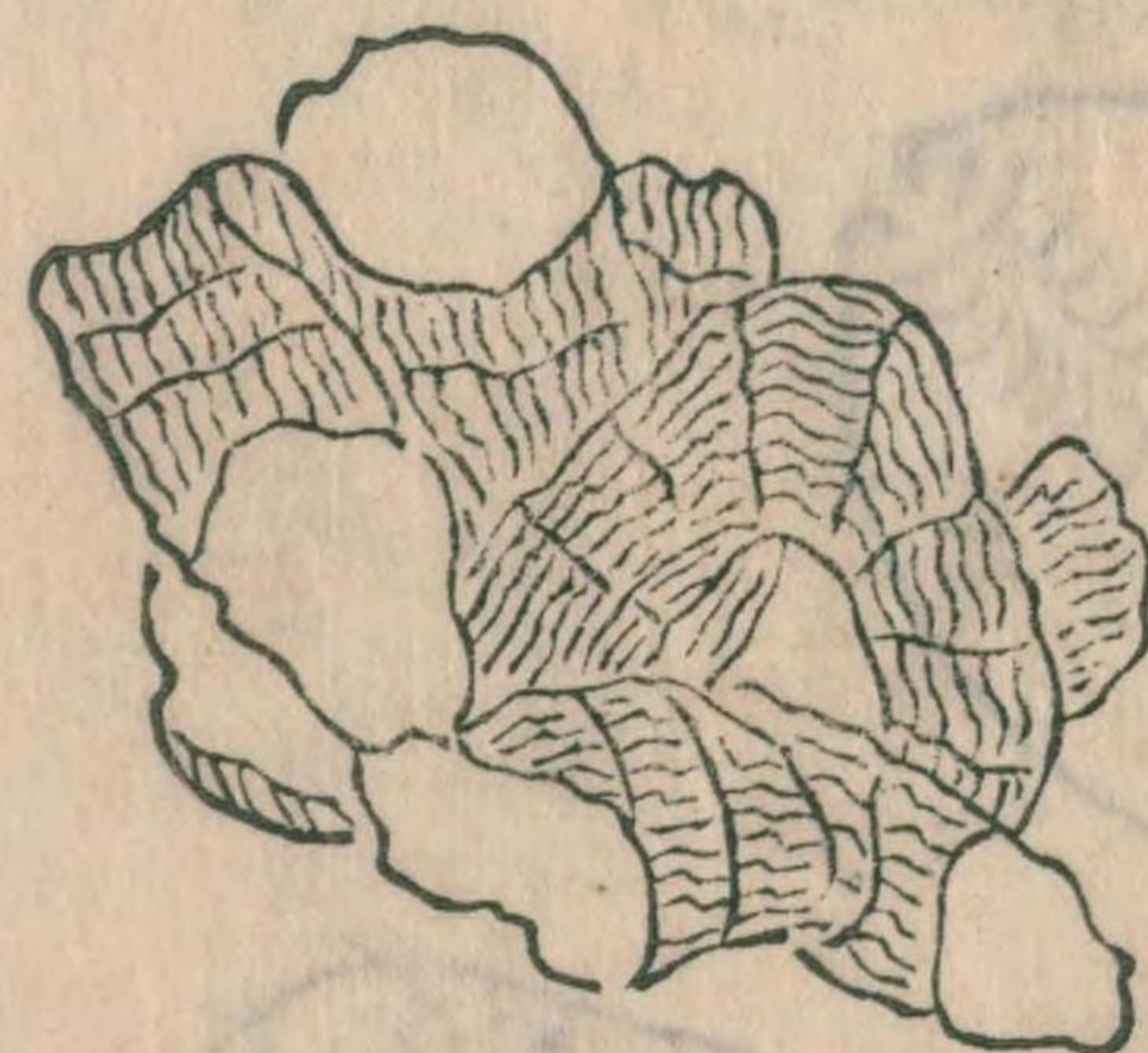
真珠貝面



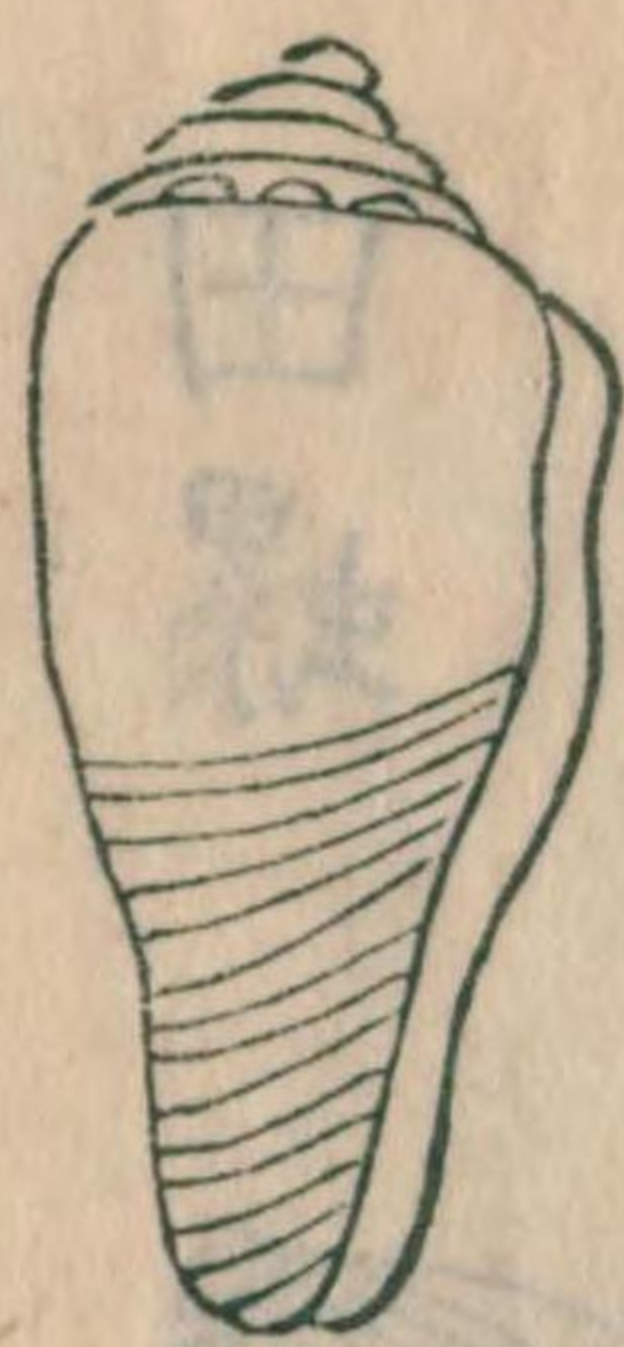
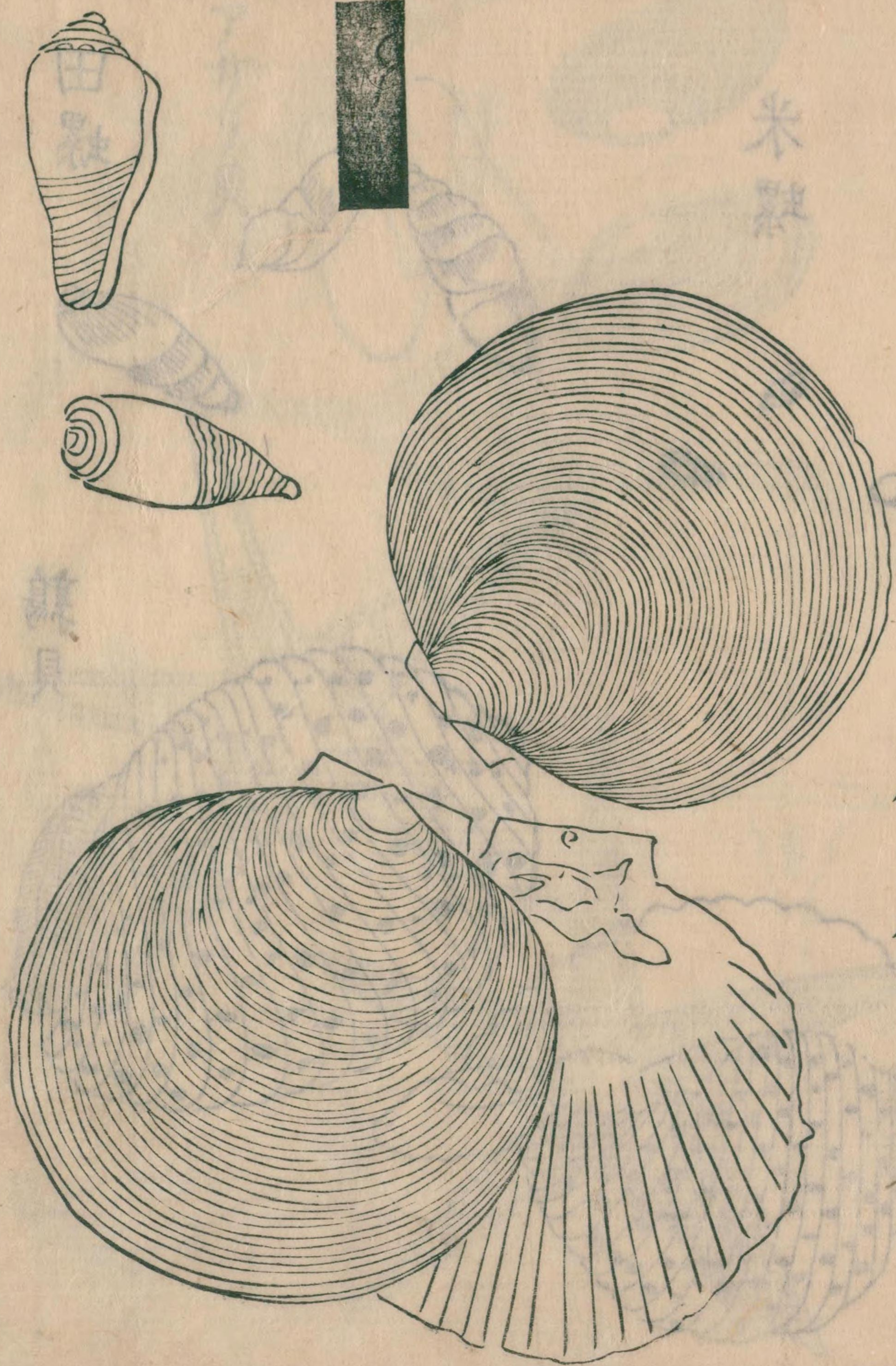
海蛇



一種海蛇



月日貝



米穀

貝類

介品



田螺

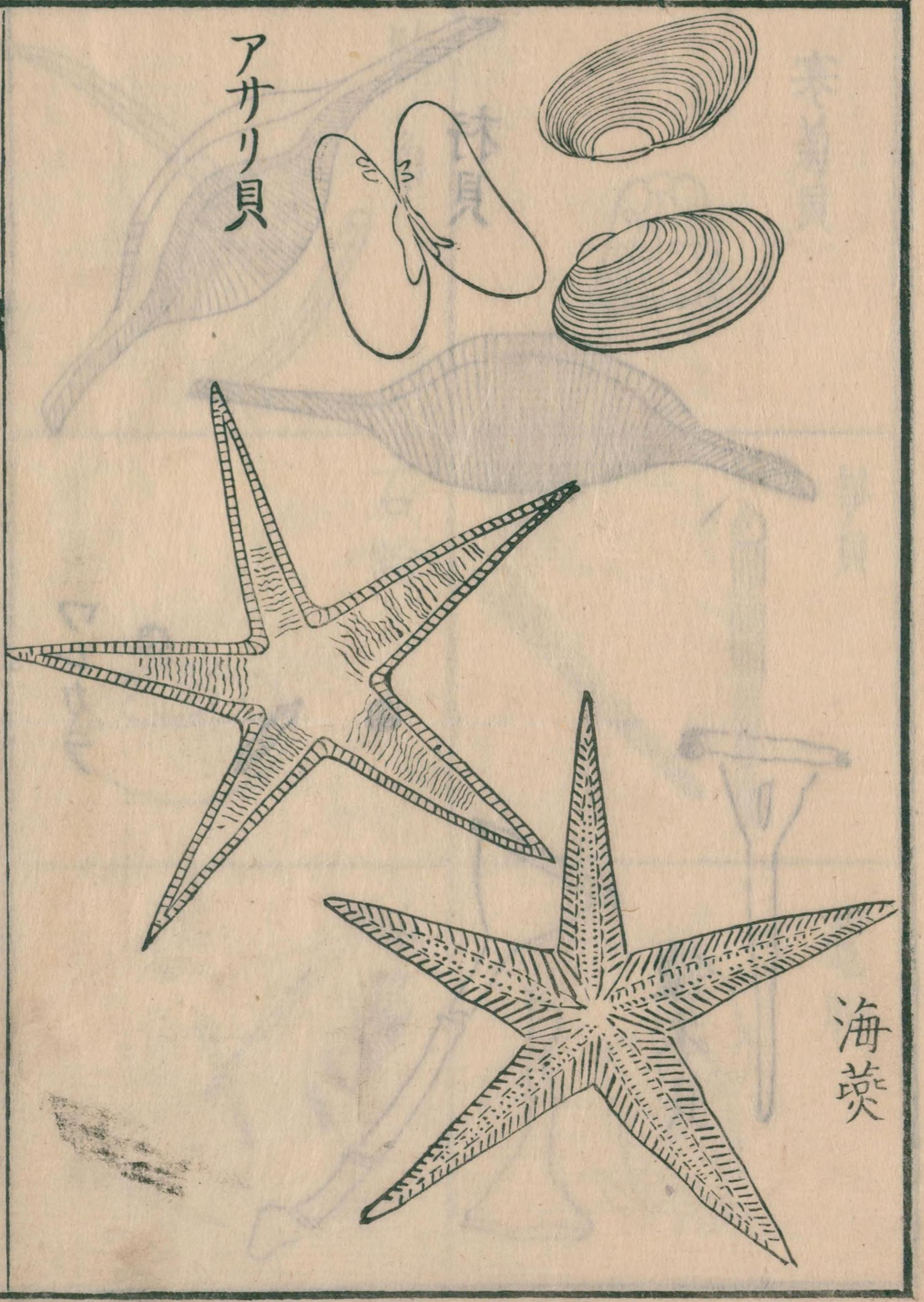
鶉貝

米螺



アサリ貝

海藻



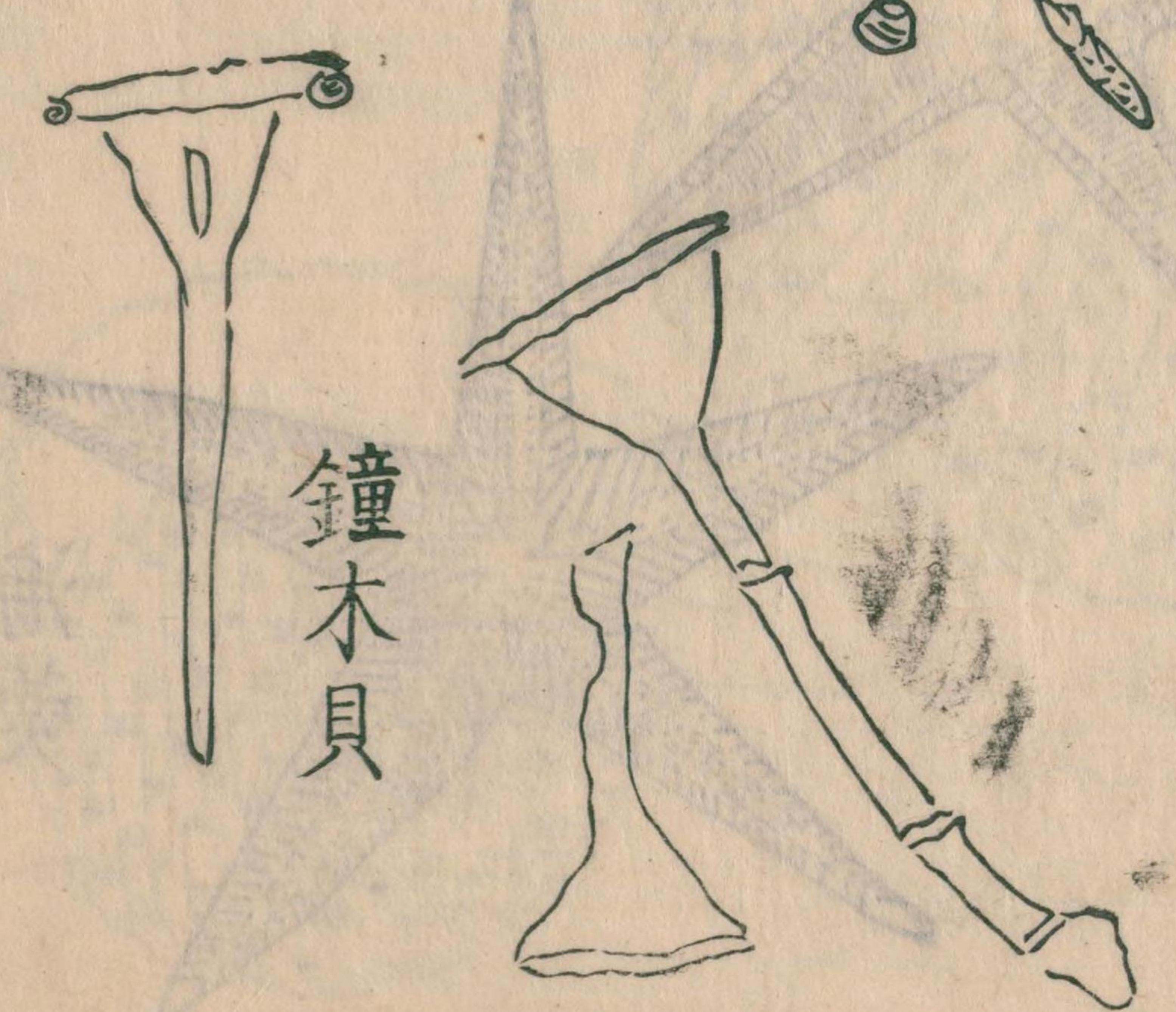
杼貝



ワレカラ



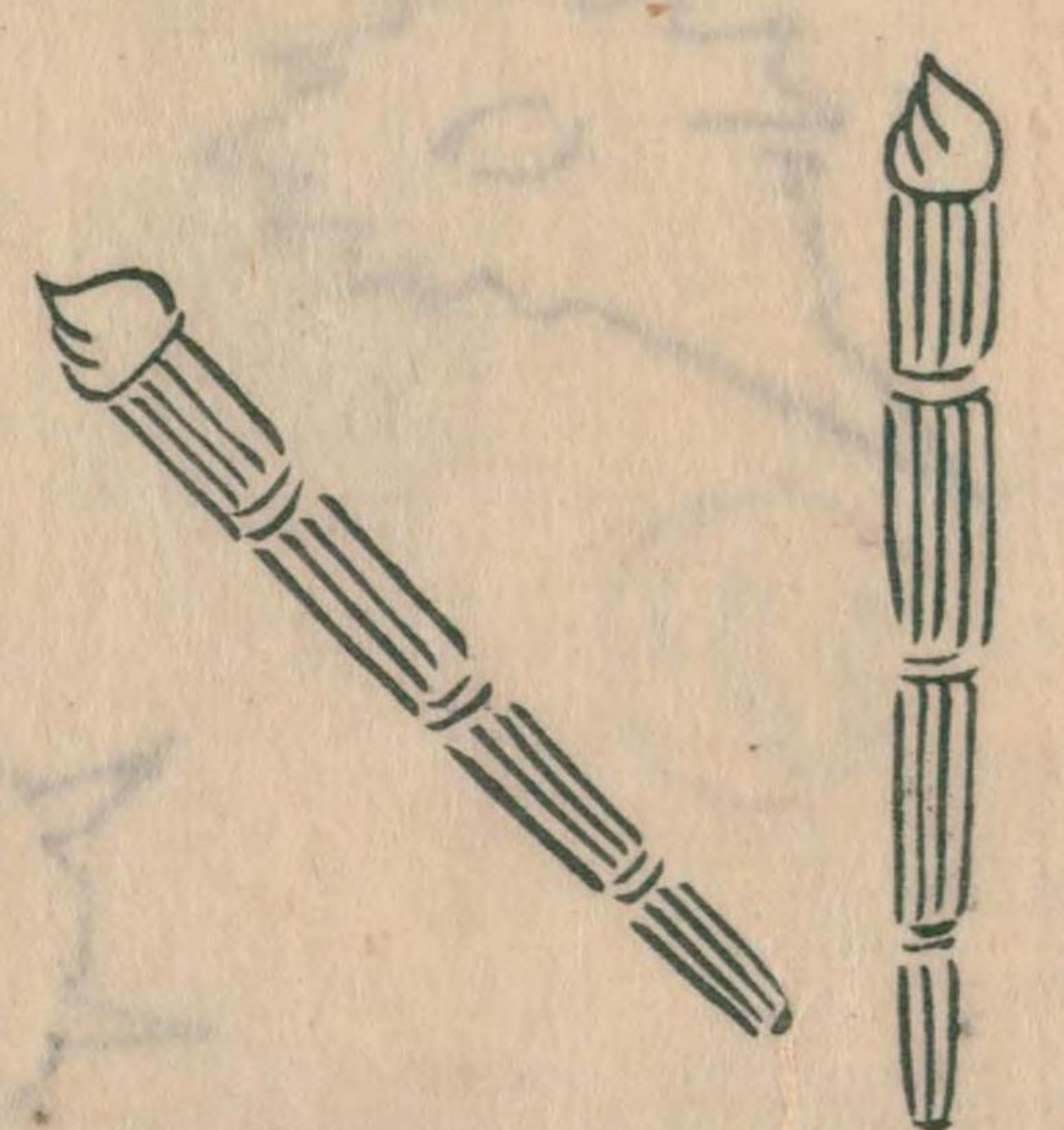
鐘木貝



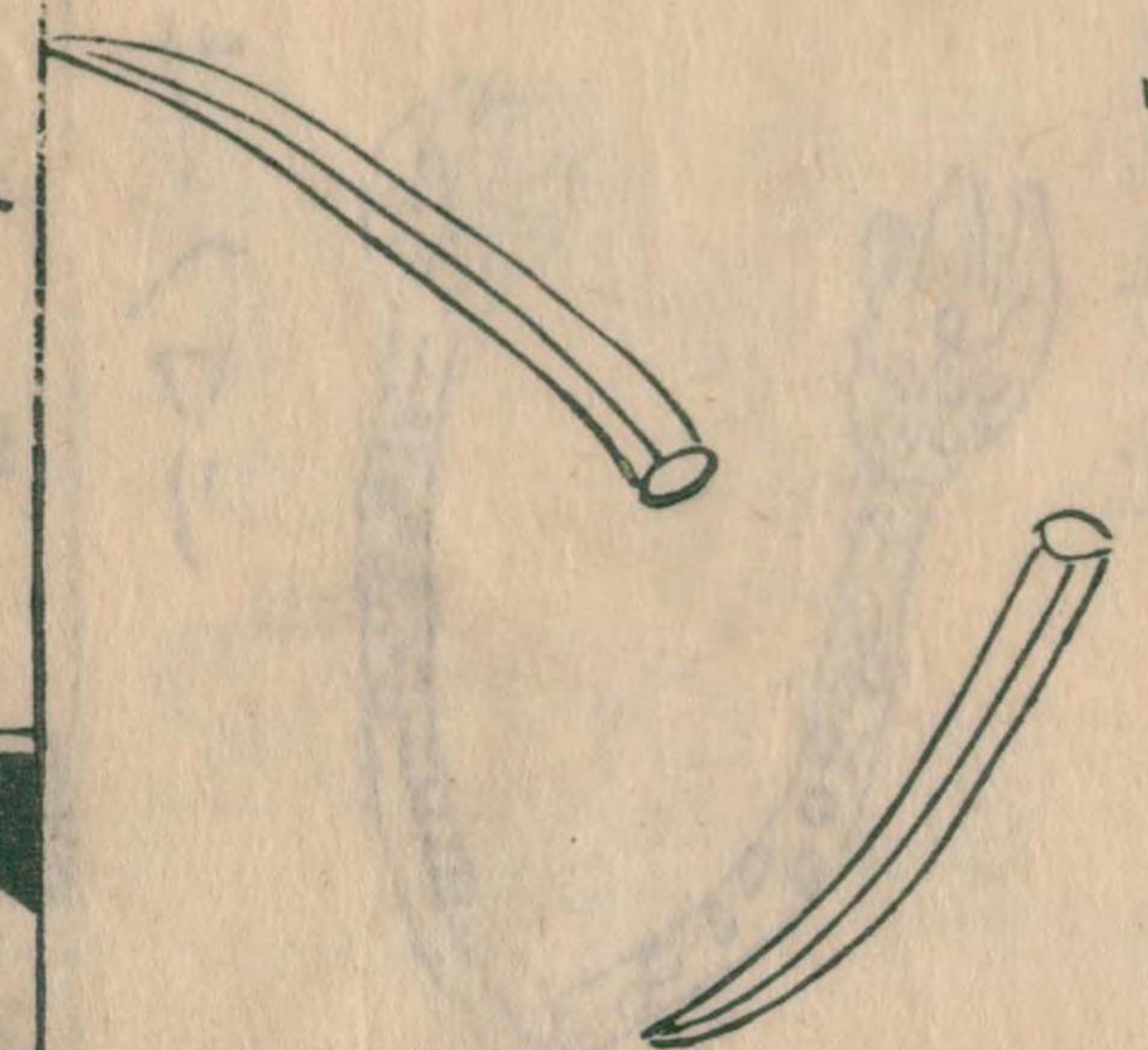
寒菊貝



筭貝



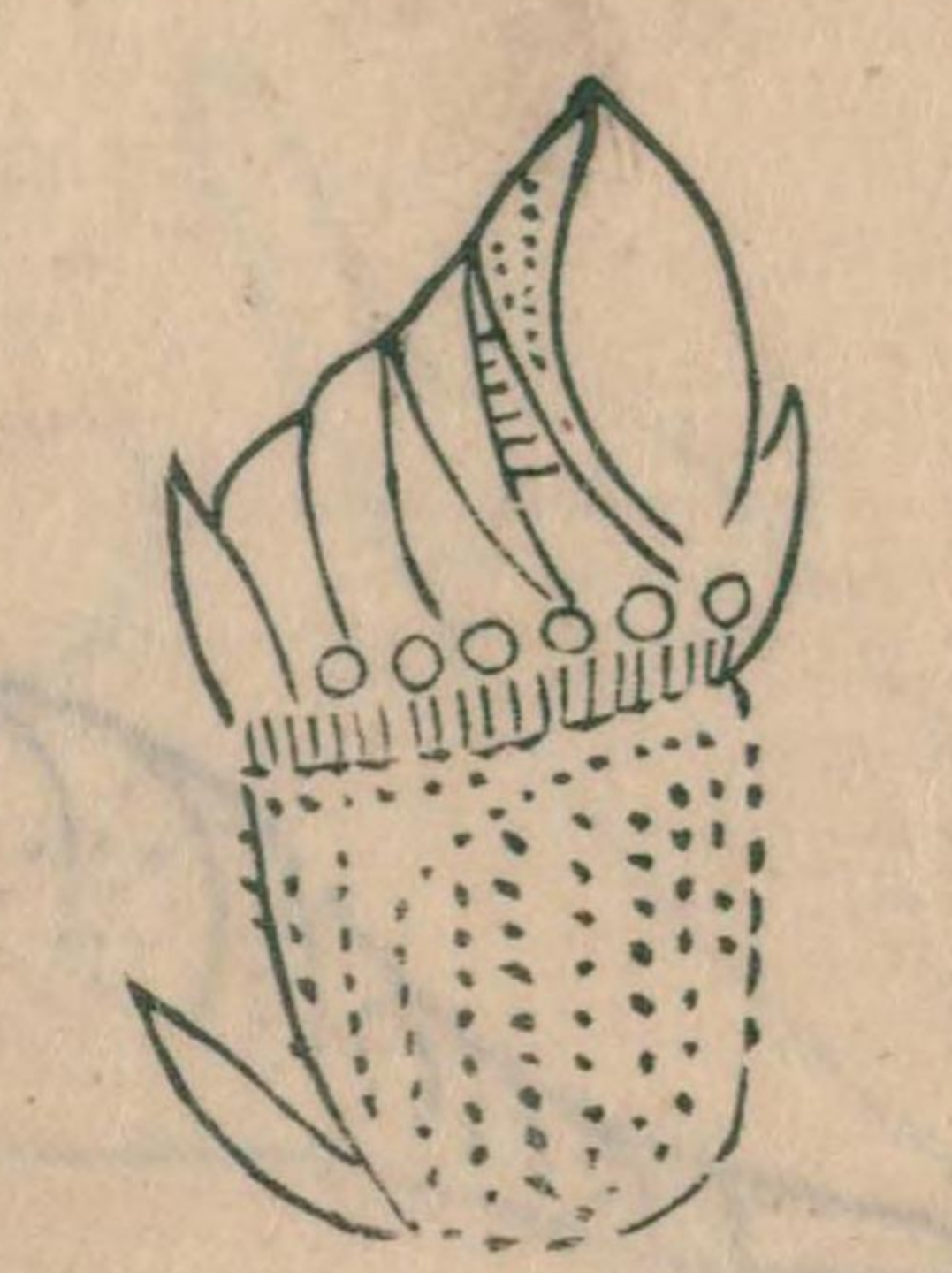
駒ノ角



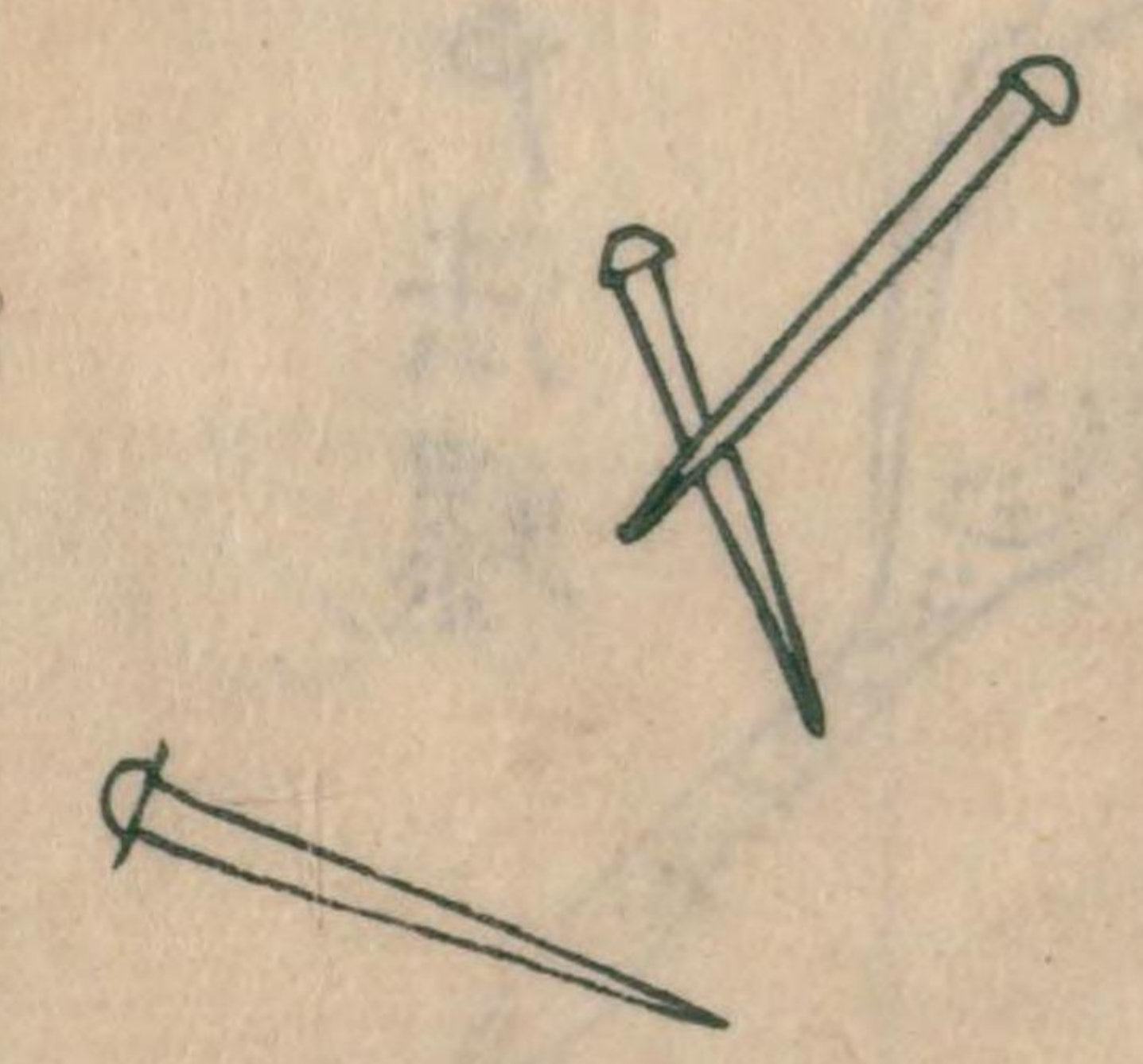
石蛤



亀脚

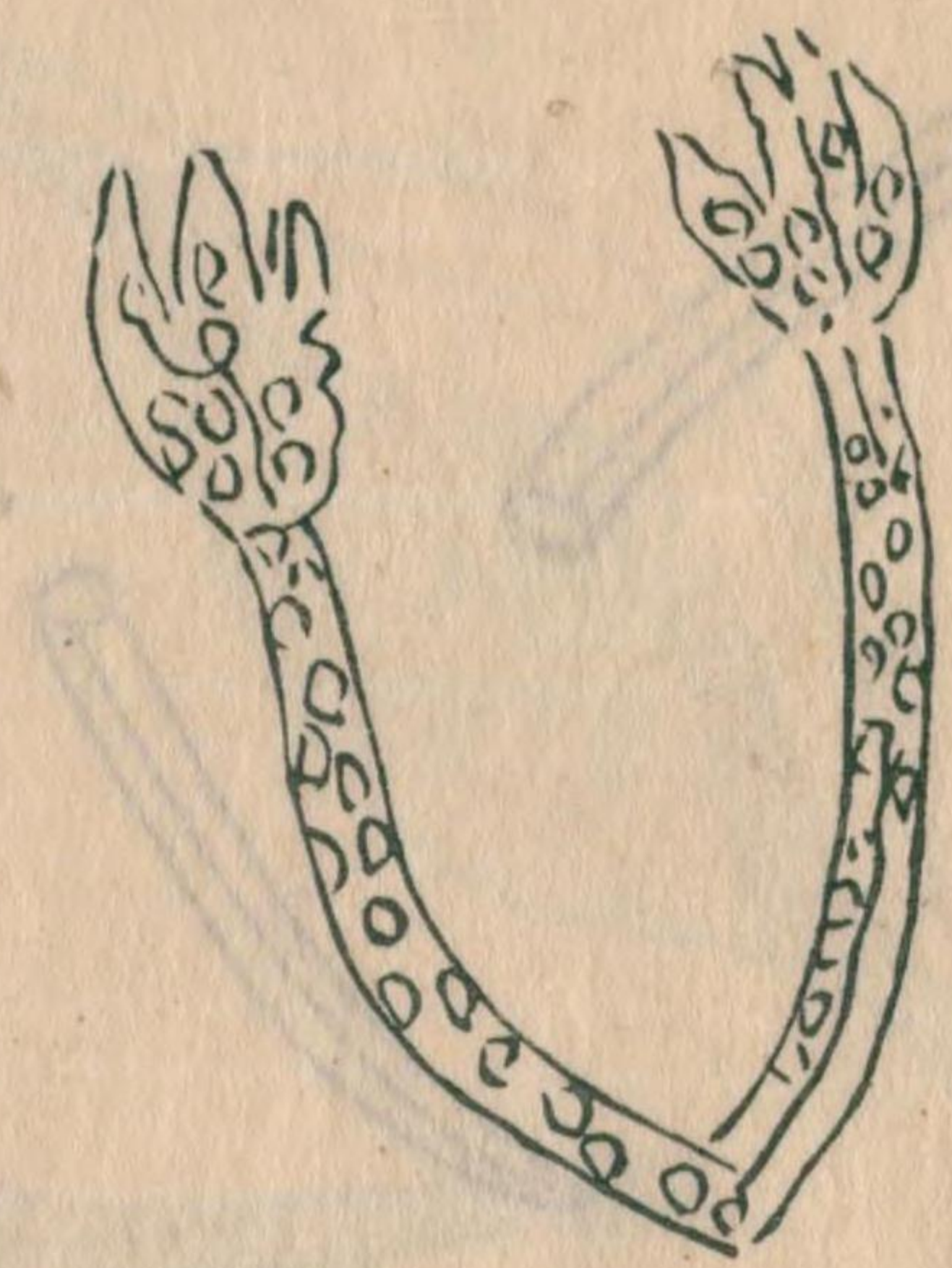


沙筋

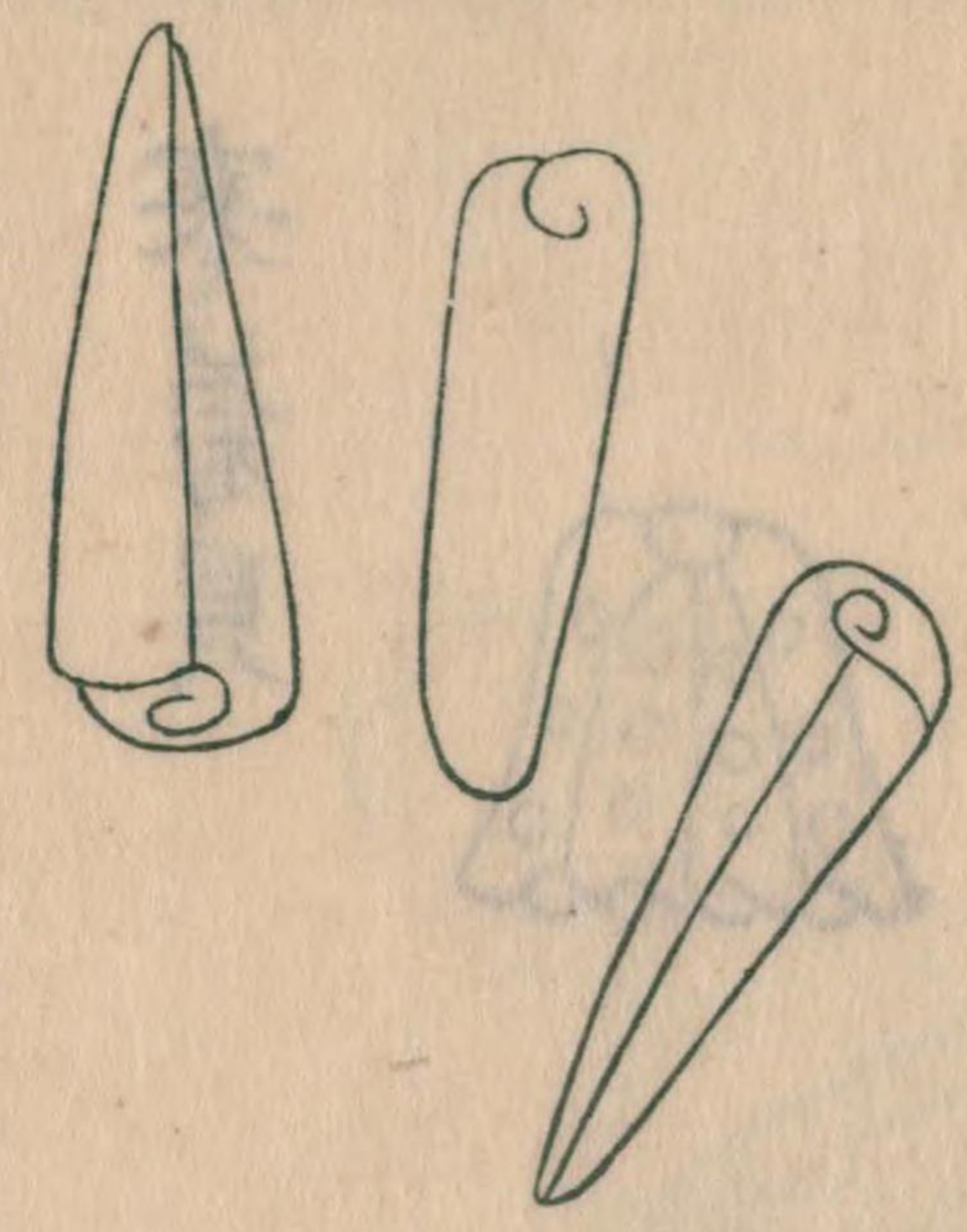


介品
卷二
二

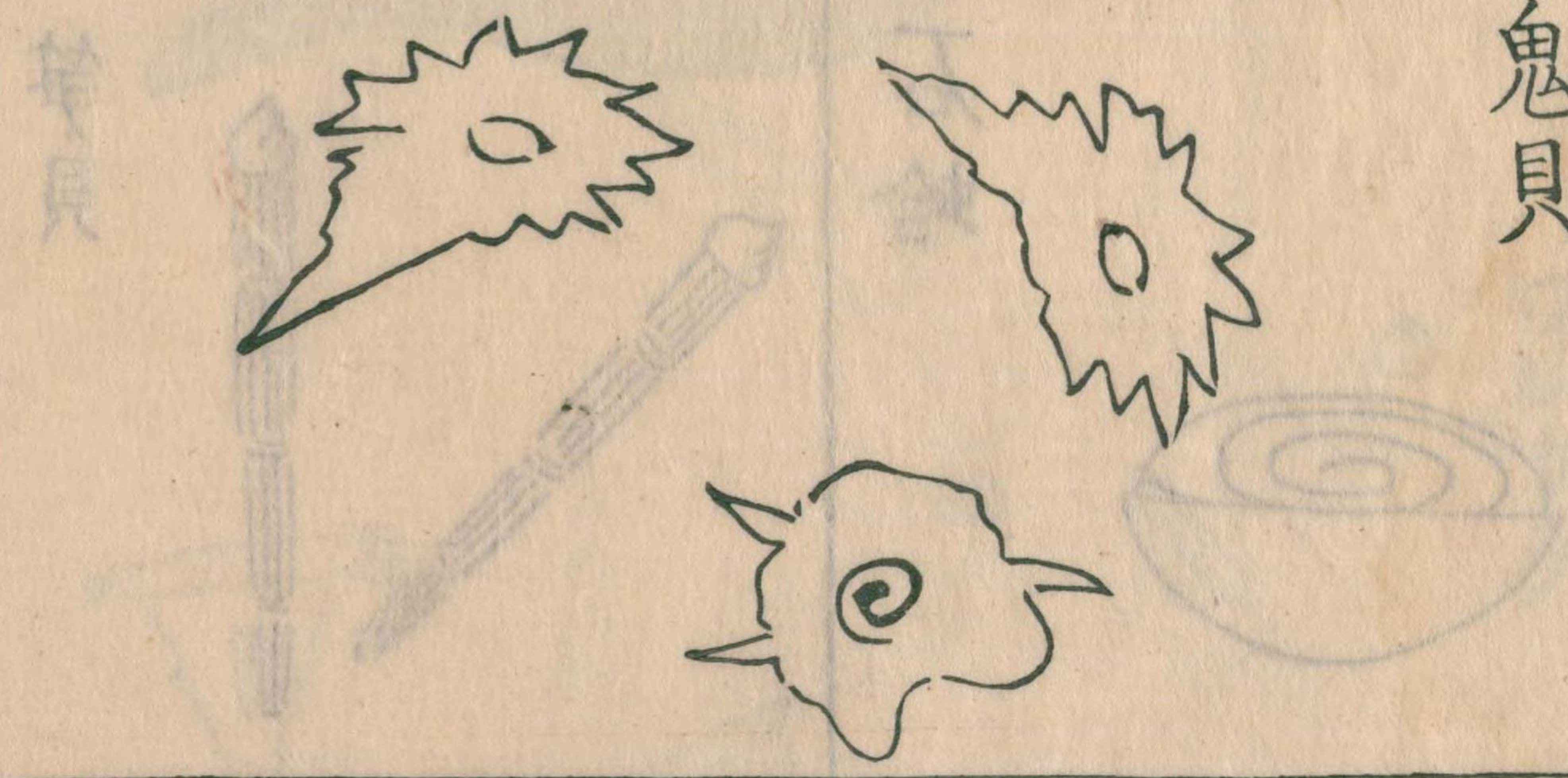
サヘワリ



絹巻



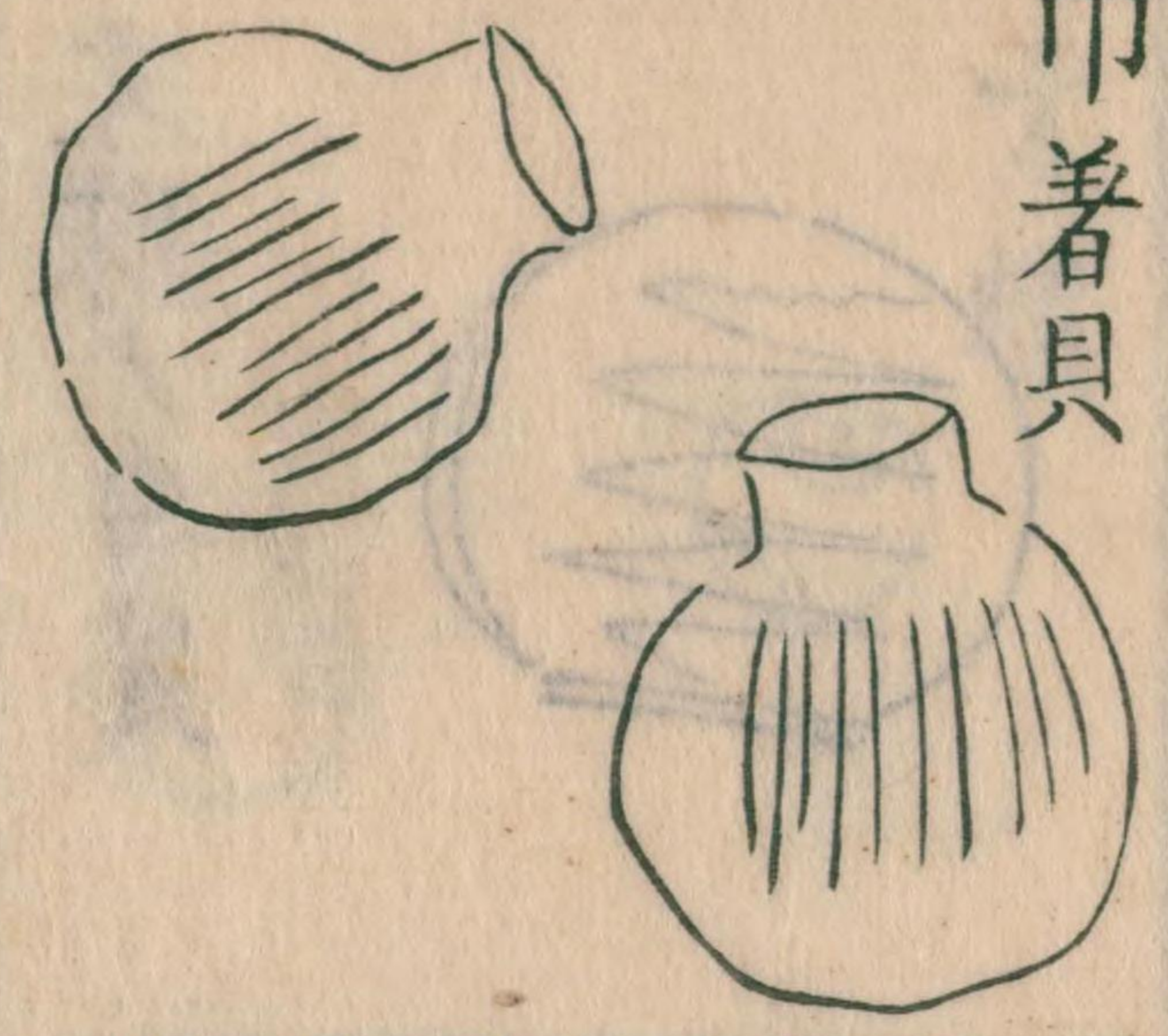
鬼貝



鳴戸法螺



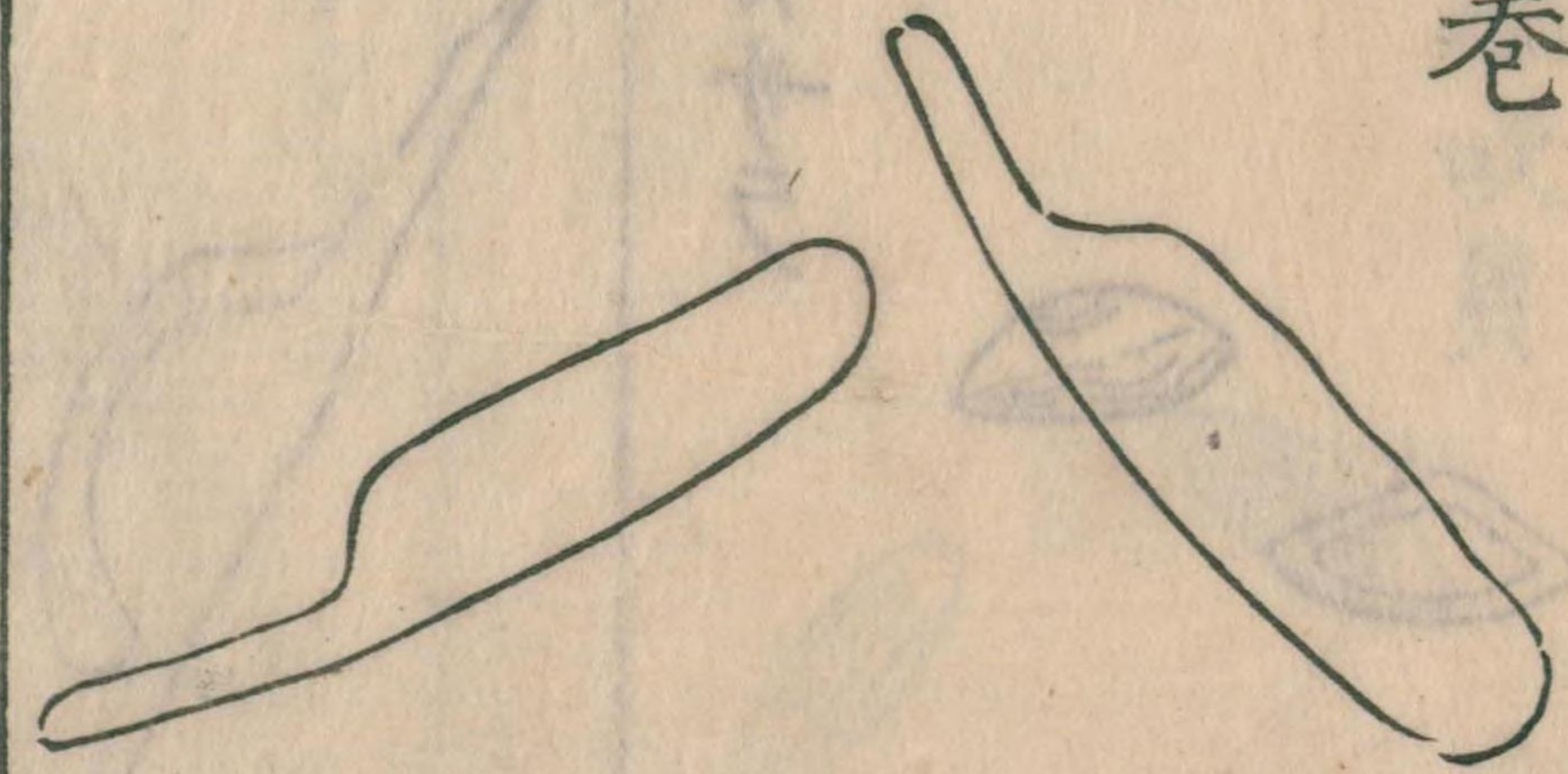
巾着貝



郎君子



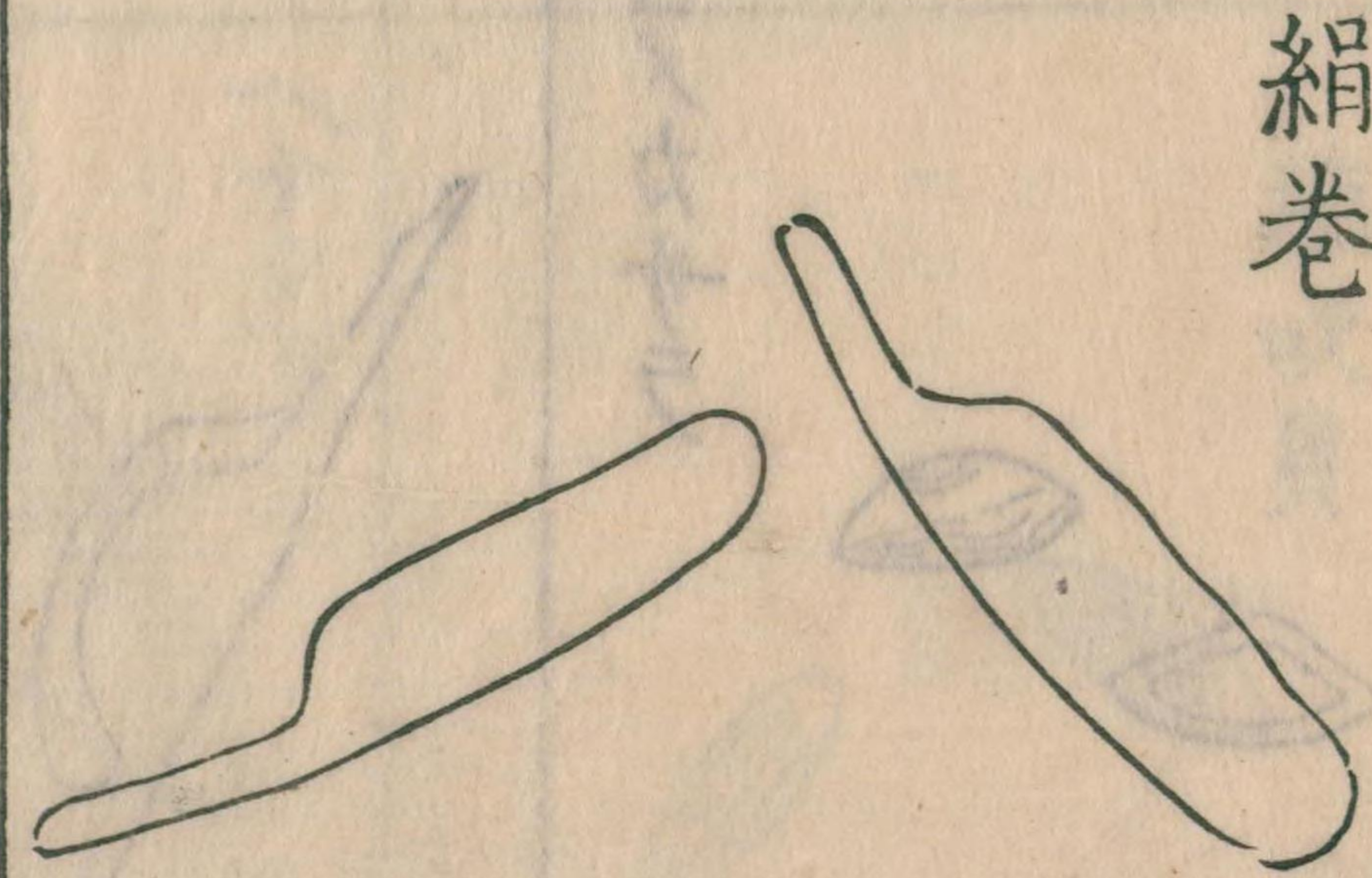
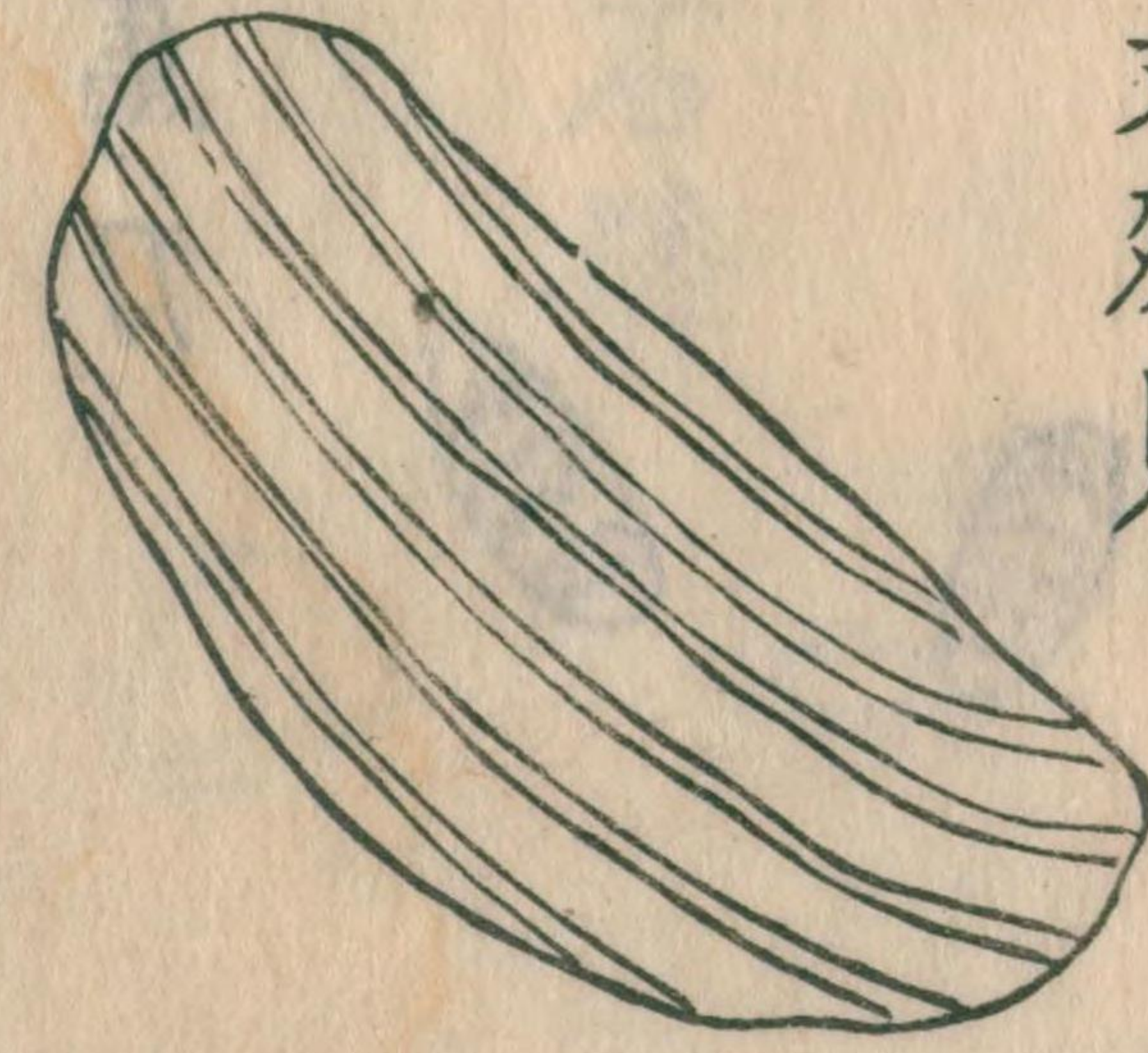
絹巻



海盤車



文殊貝



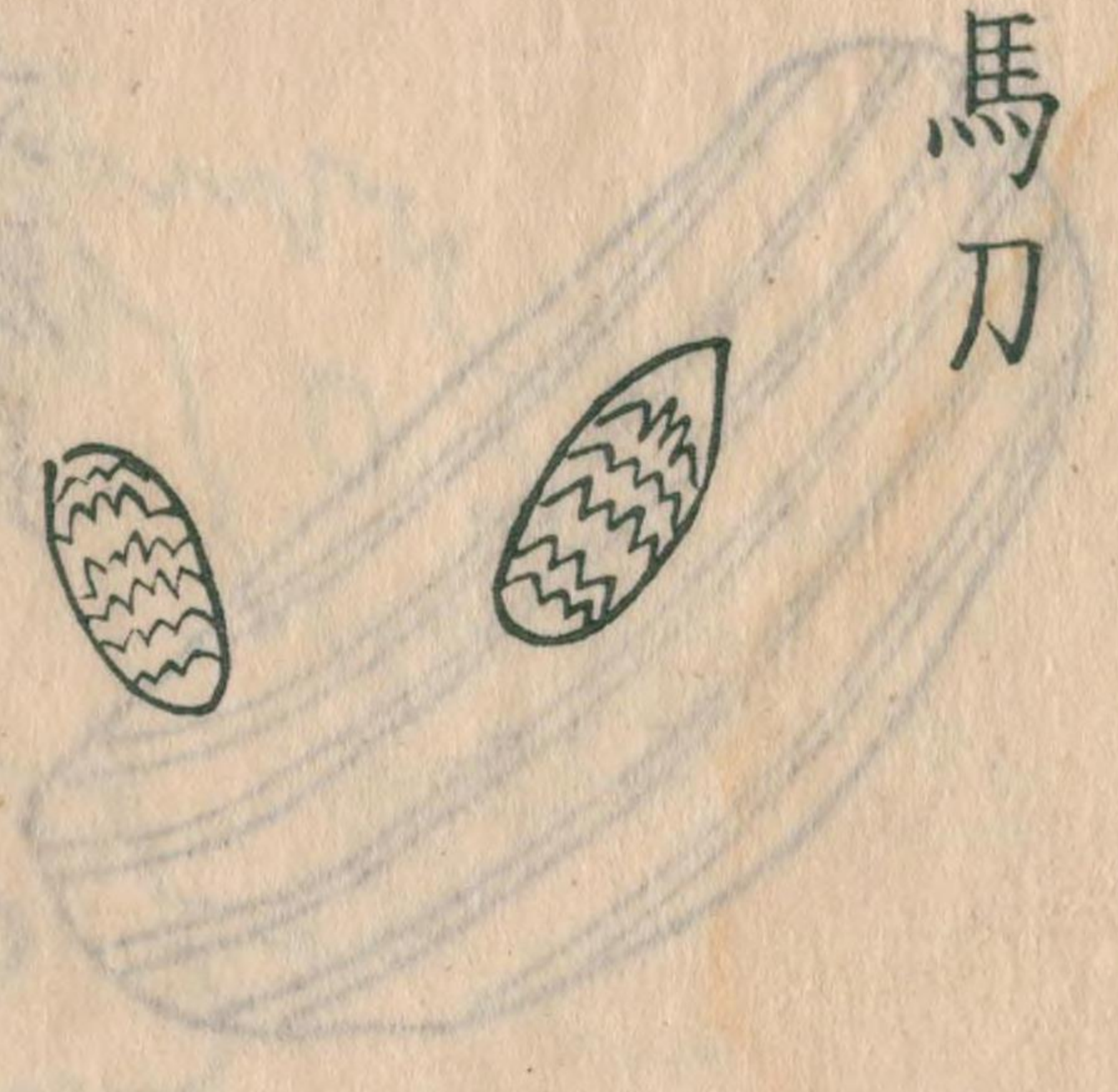
山鳥貝



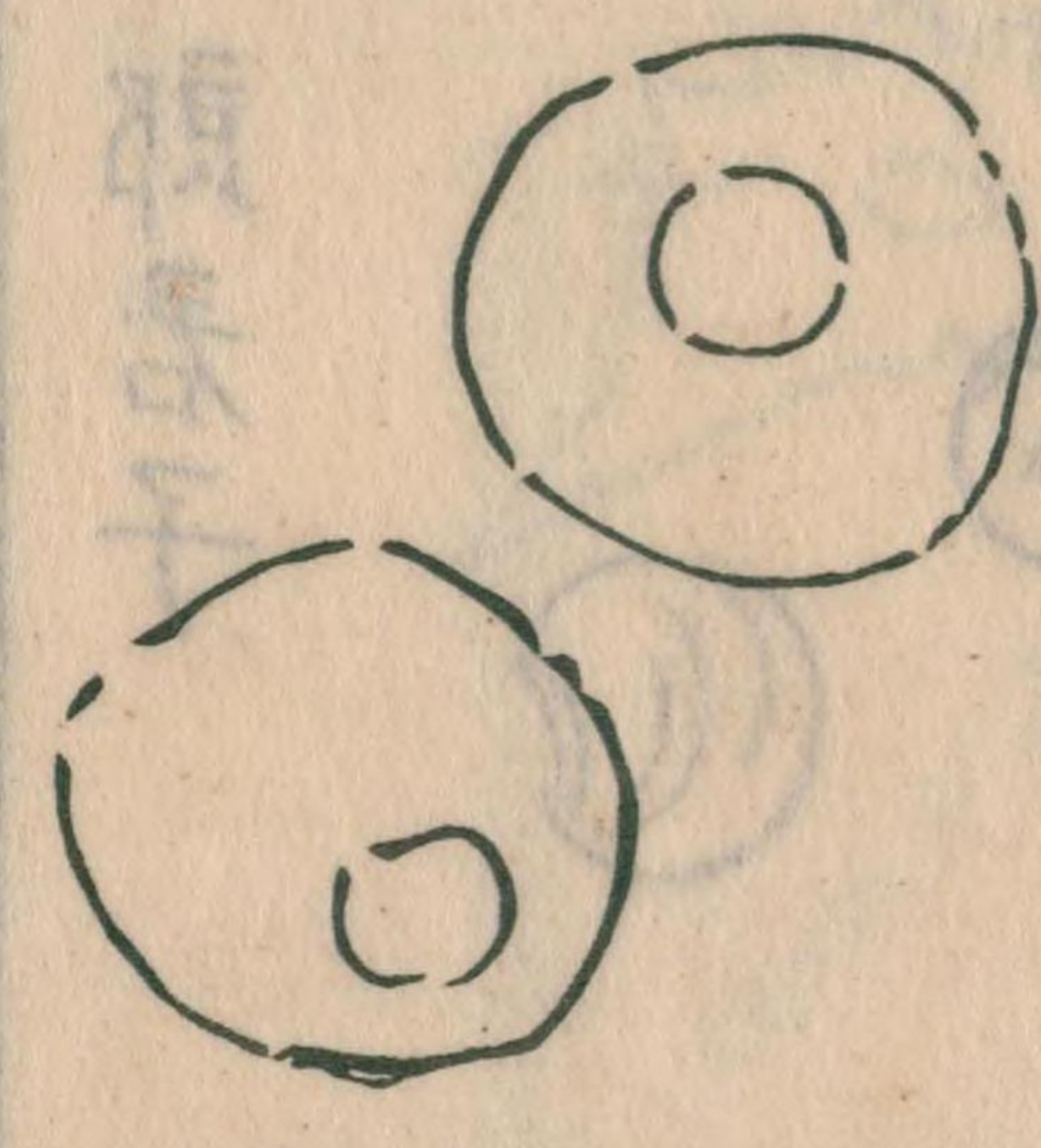
文殊ノ白貝



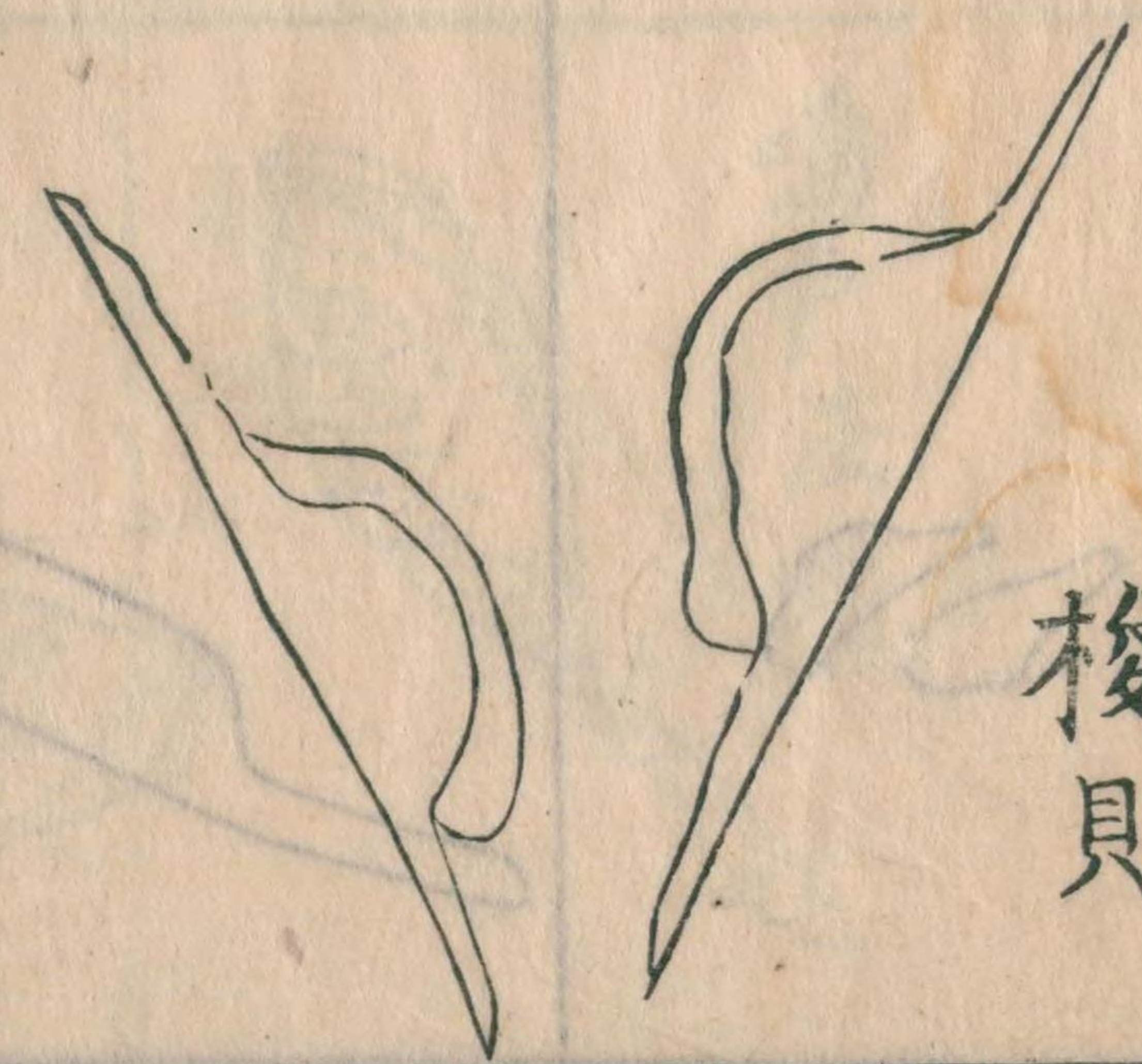
馬刀



黄牡蠣



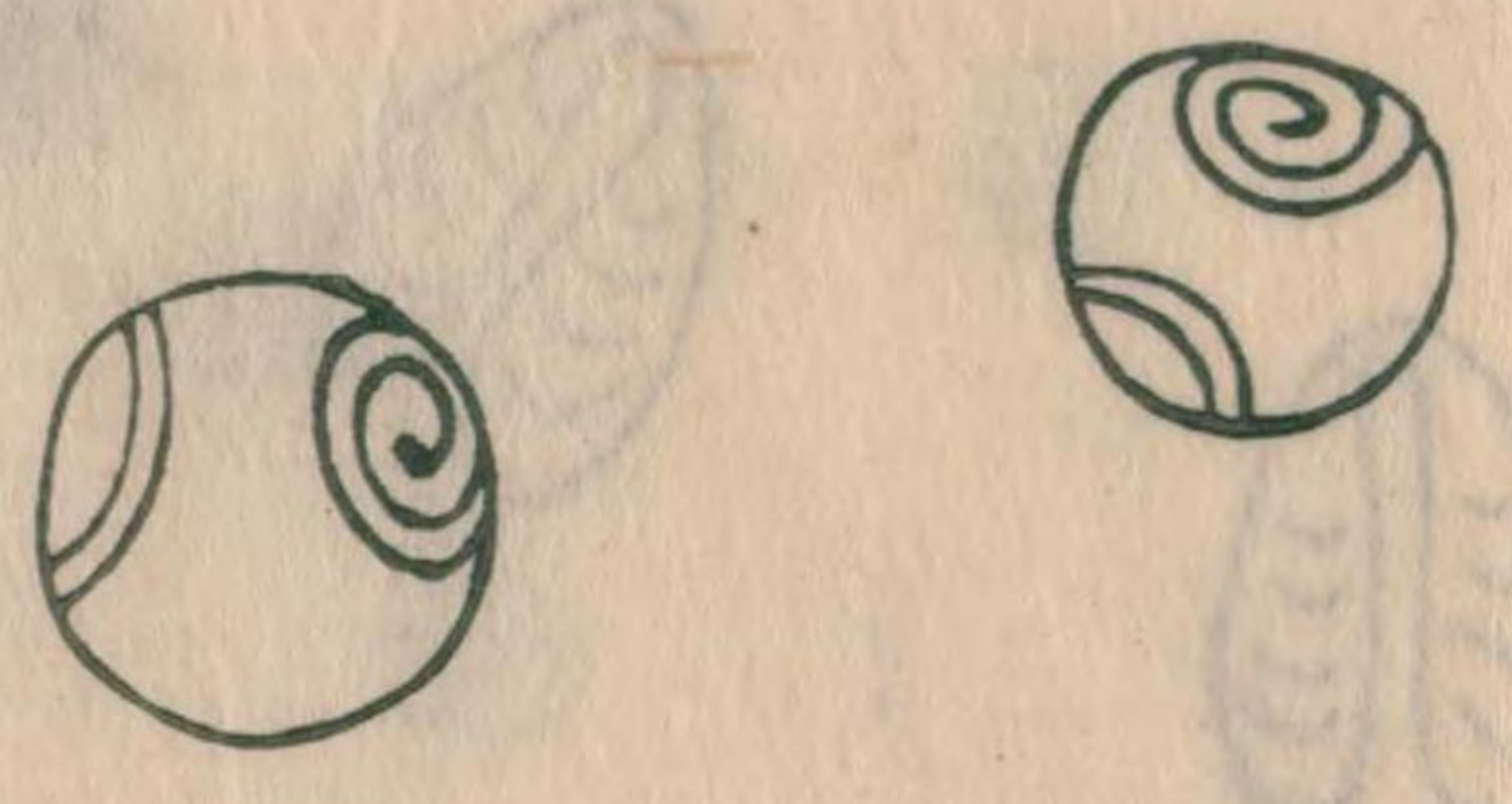
梭貝



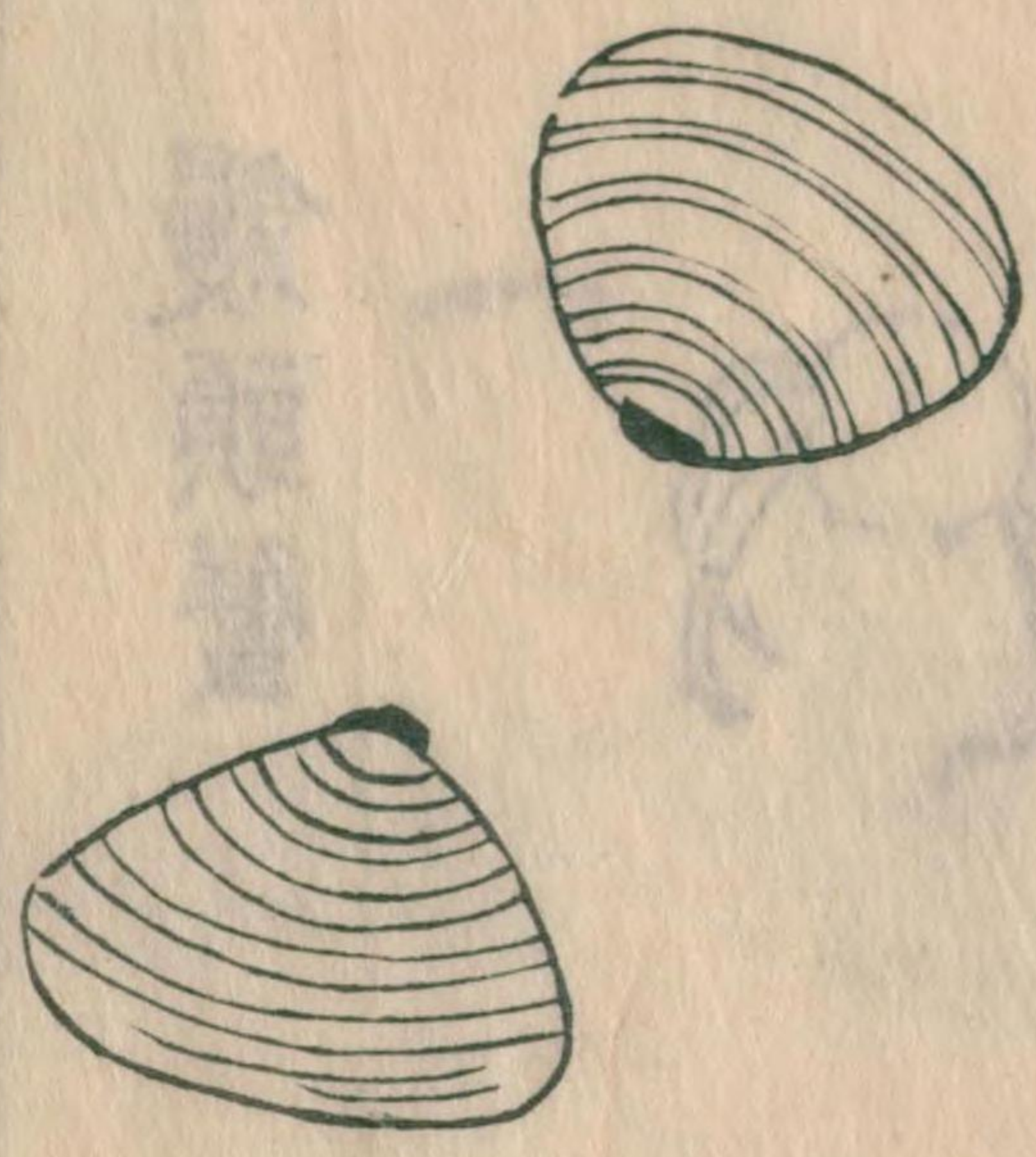
ヨメカサラ



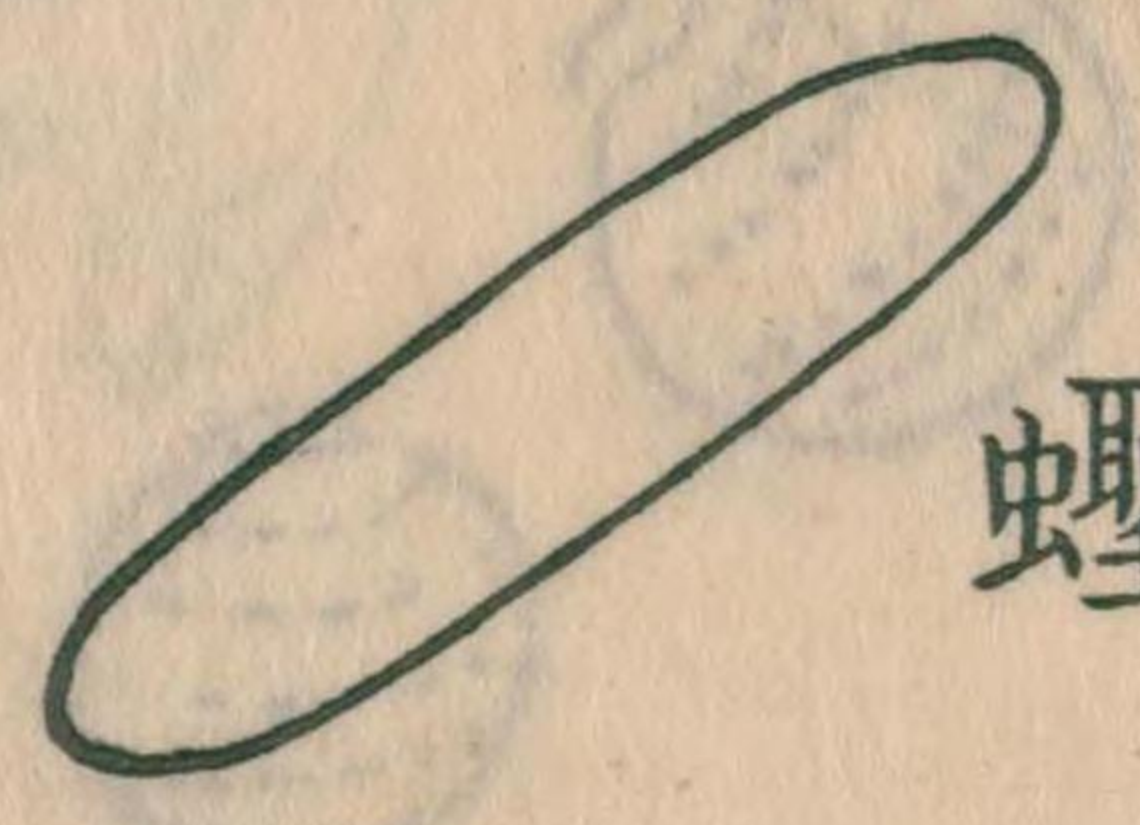
牙螺



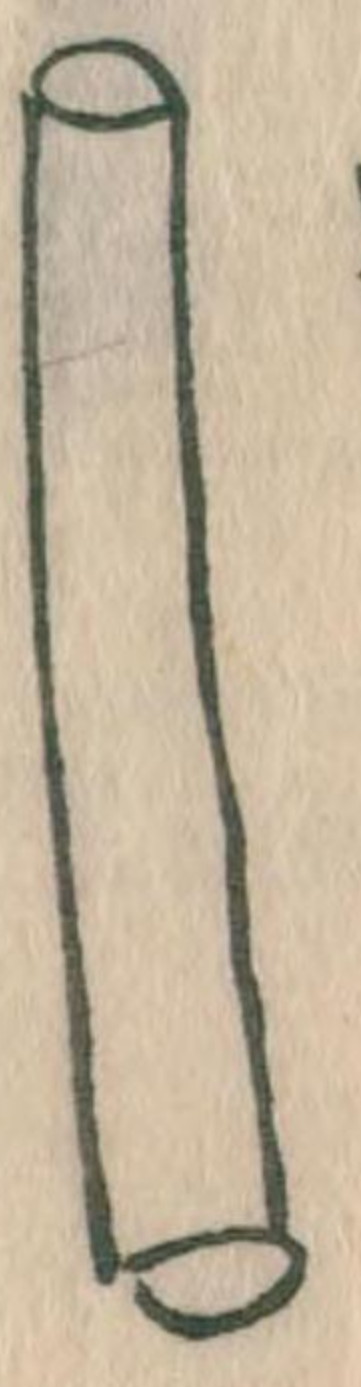
塩吹貝



蛭



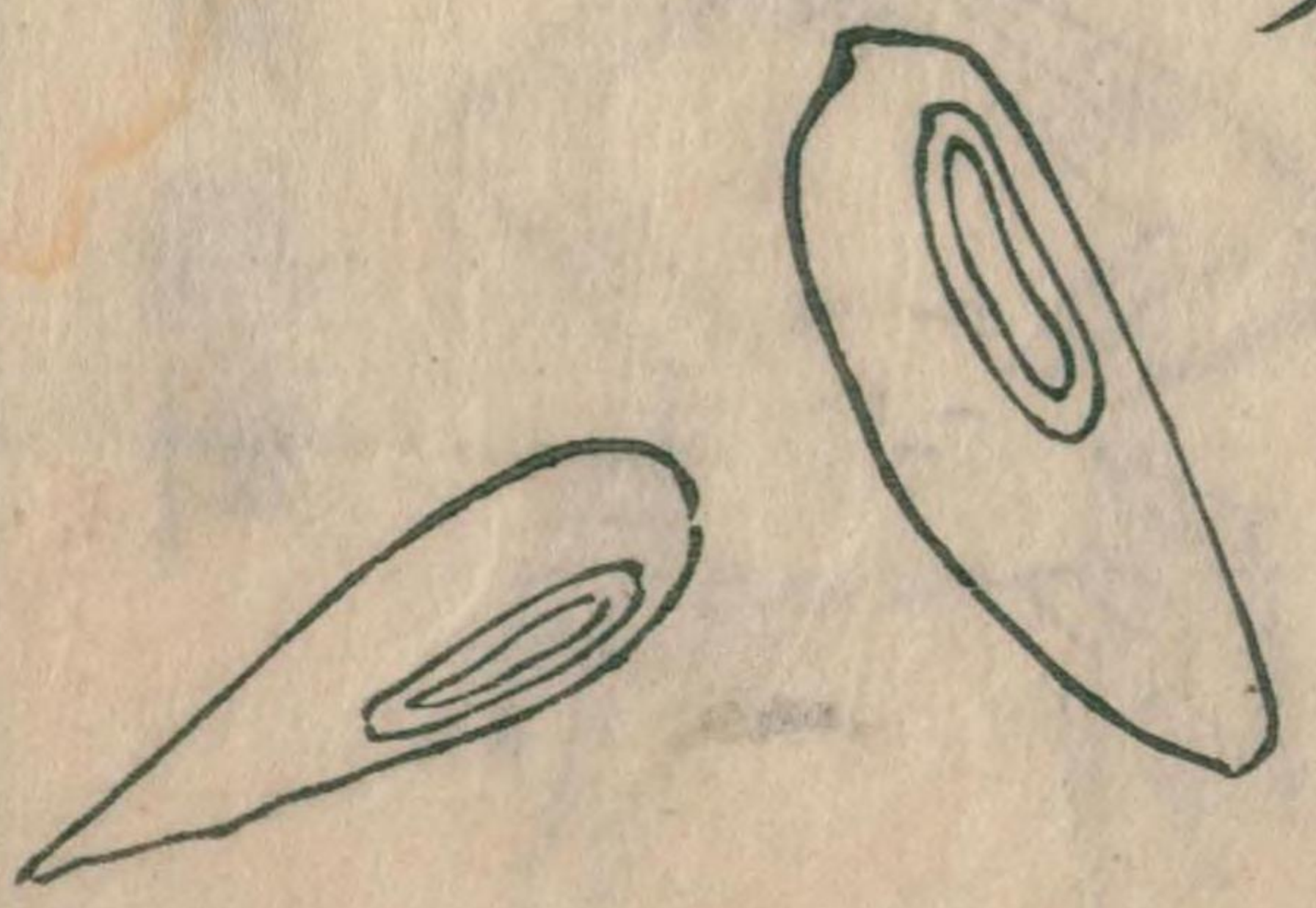
竹蛭



塩吹貝



ヘナタリ



石磷



饅頭蟹



蟬



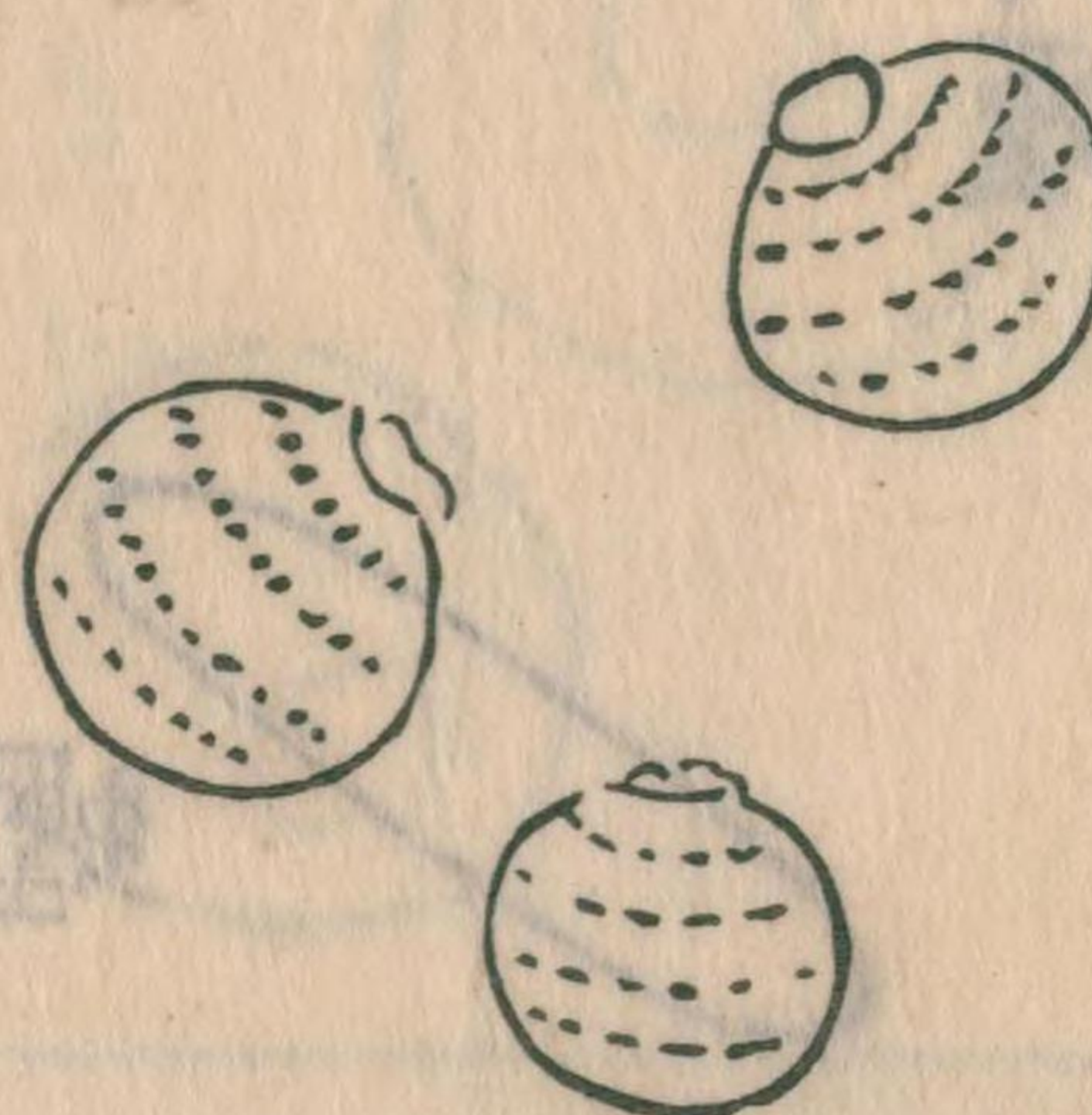
藝列擁劍



江橈



海田螺



石蛭



スカイ



芋貝



一スホ貝



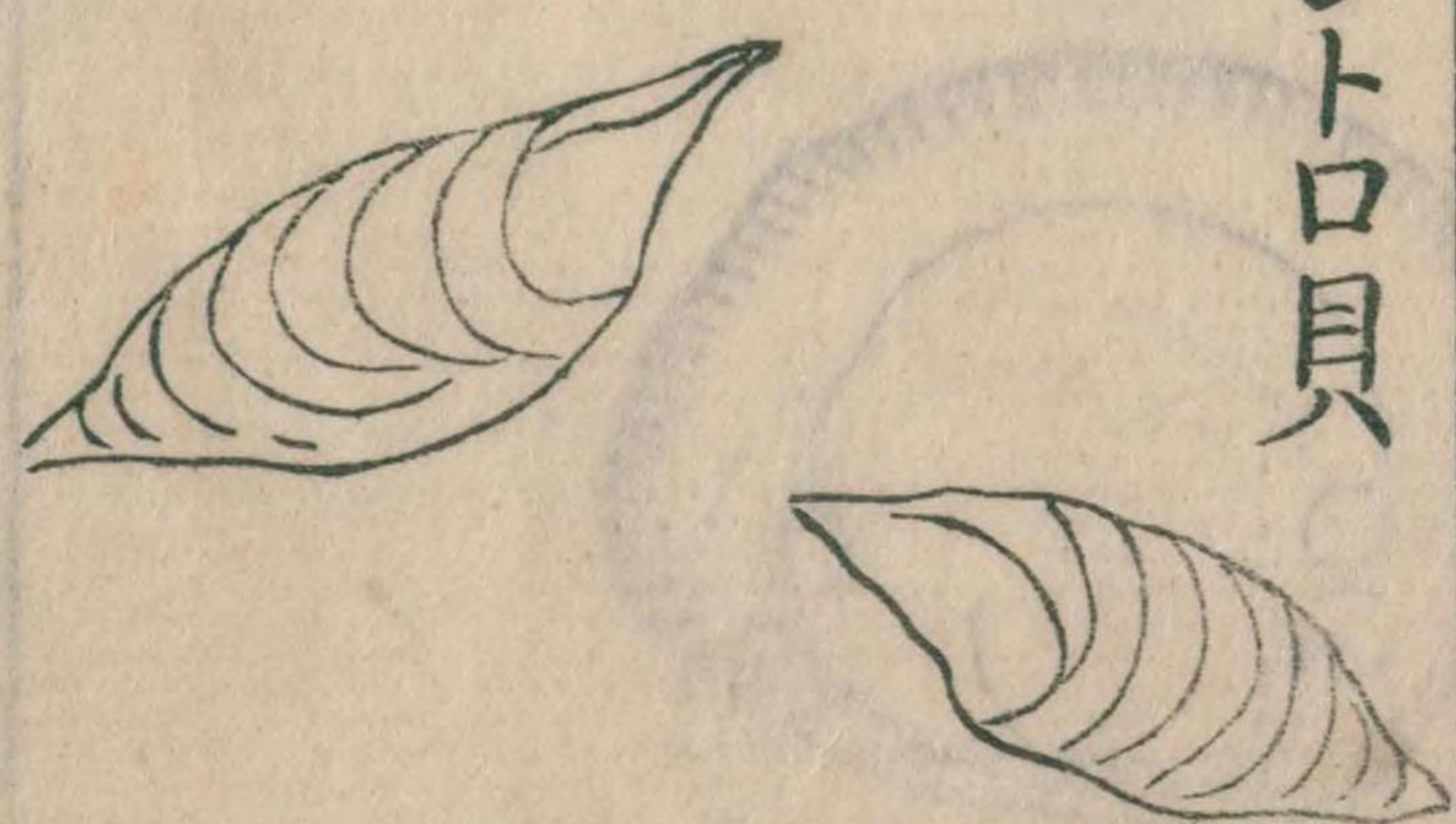
茗荷貝



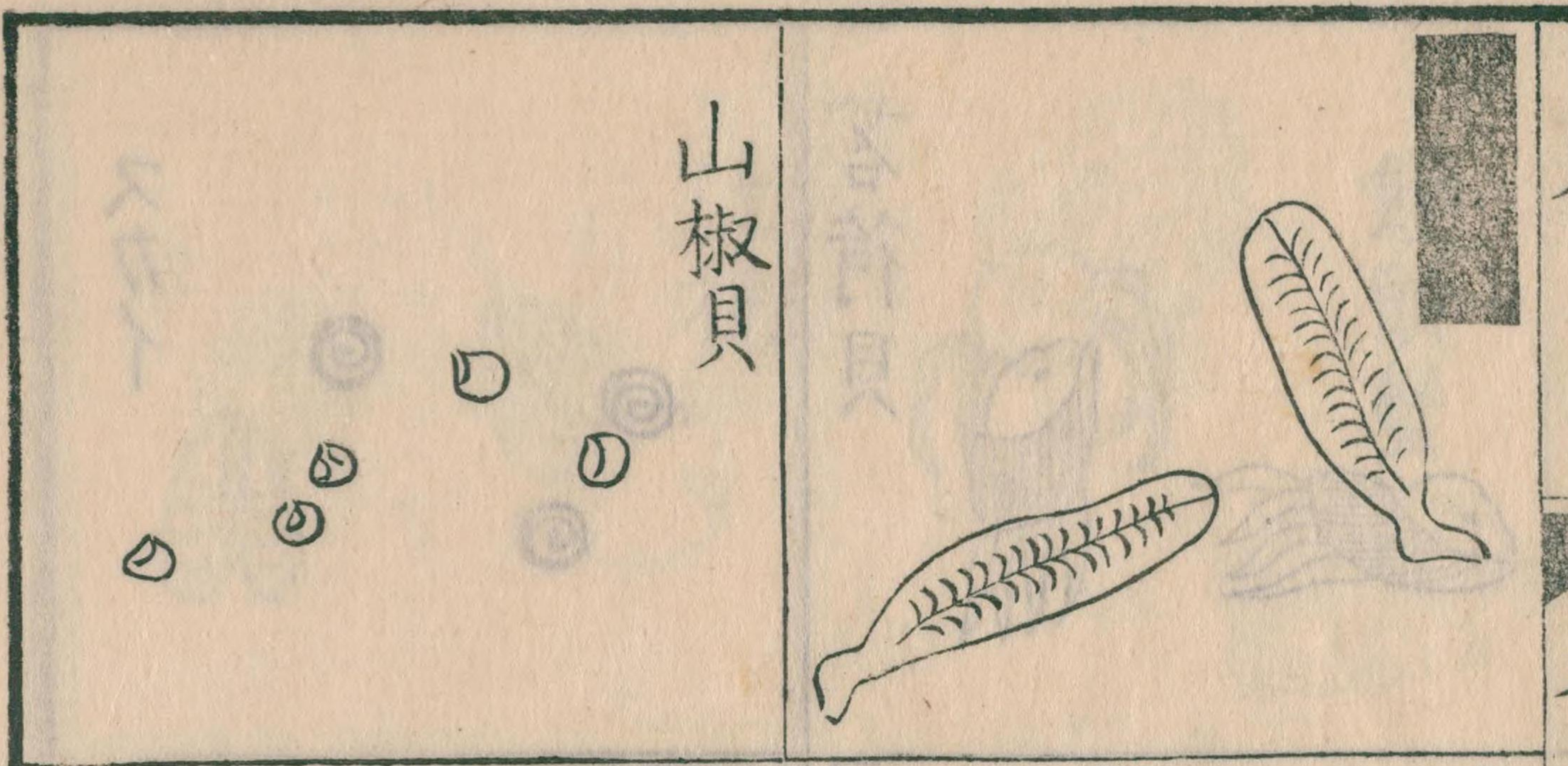
ヨメカ皿



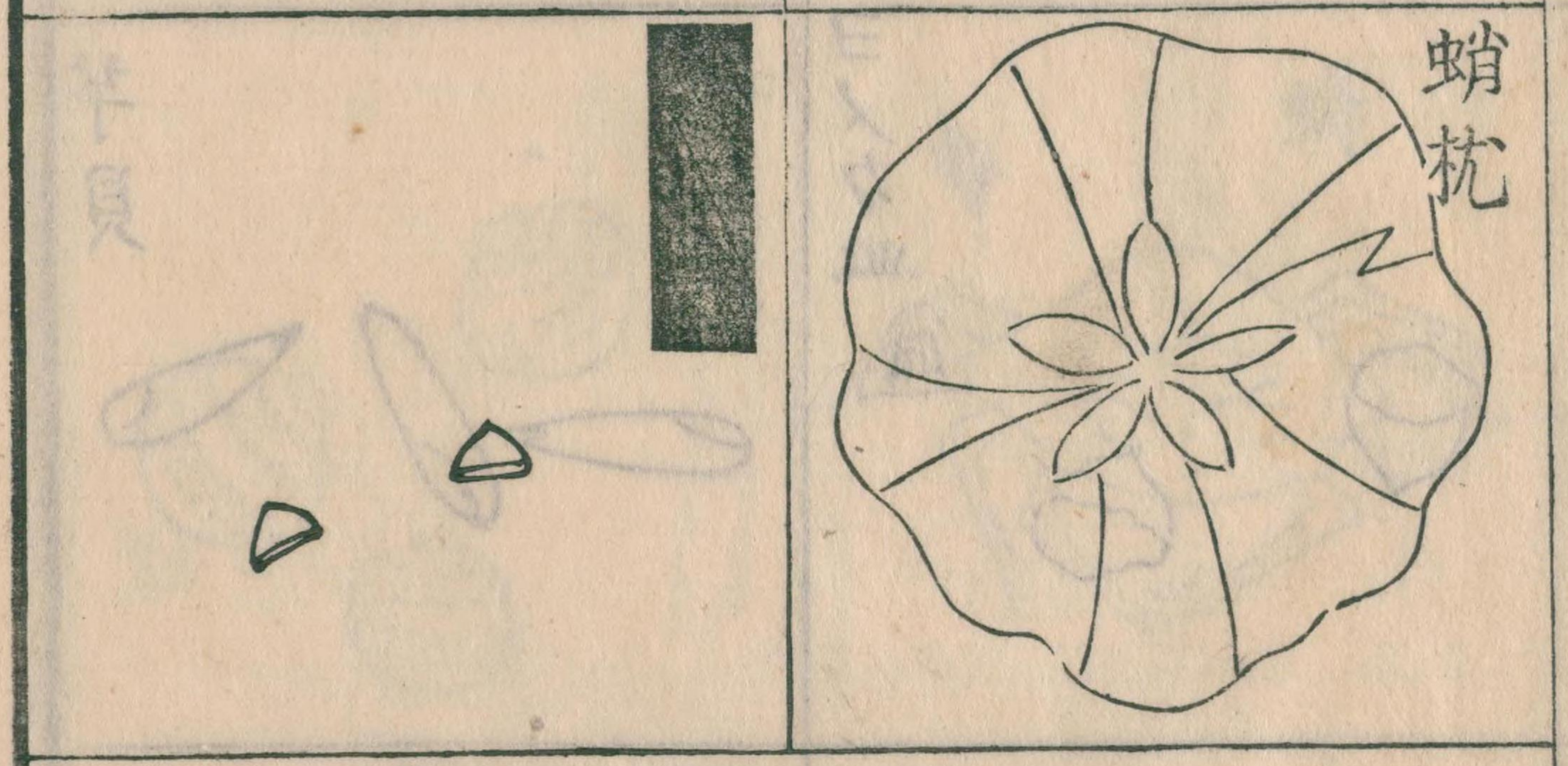
シトロ貝



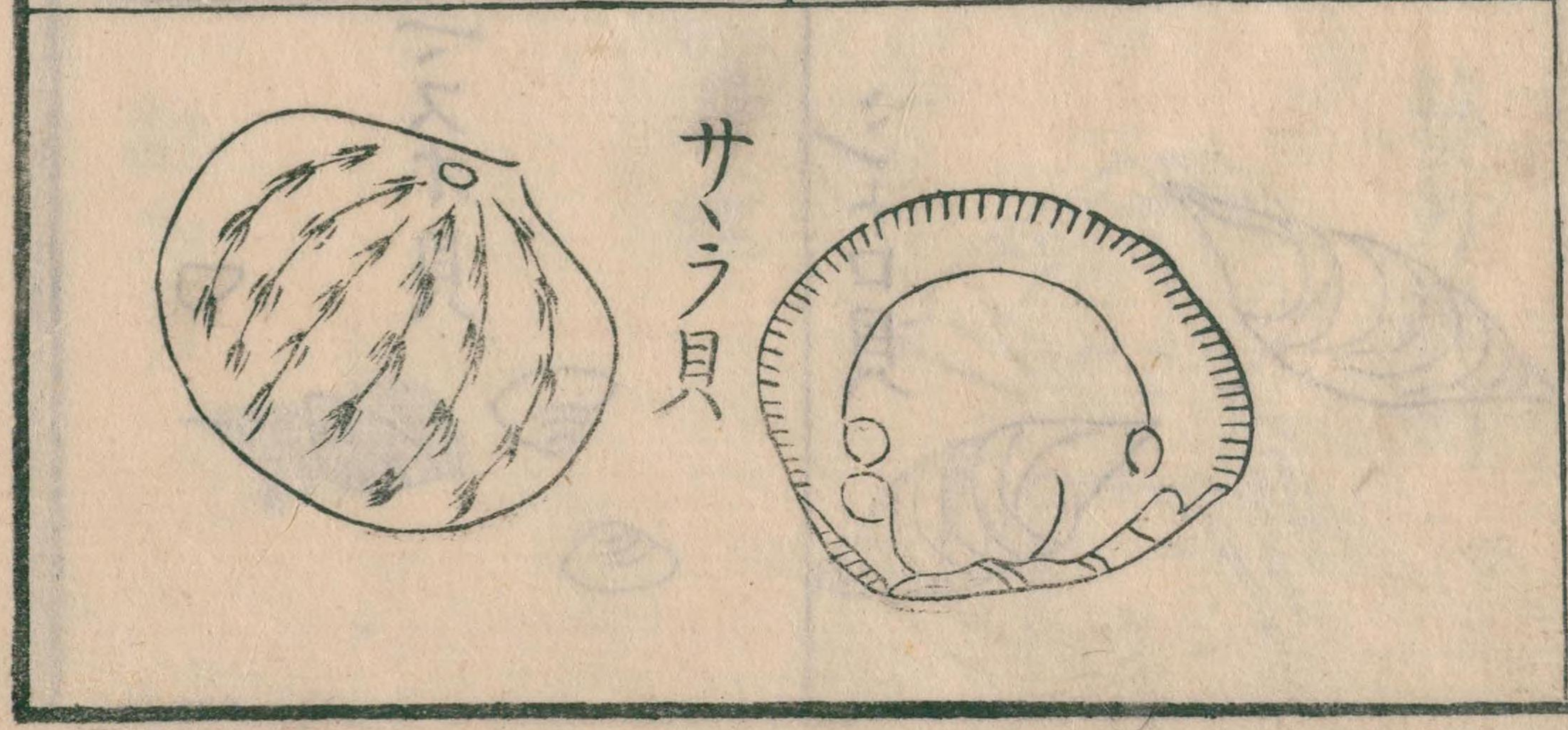
山椒貝



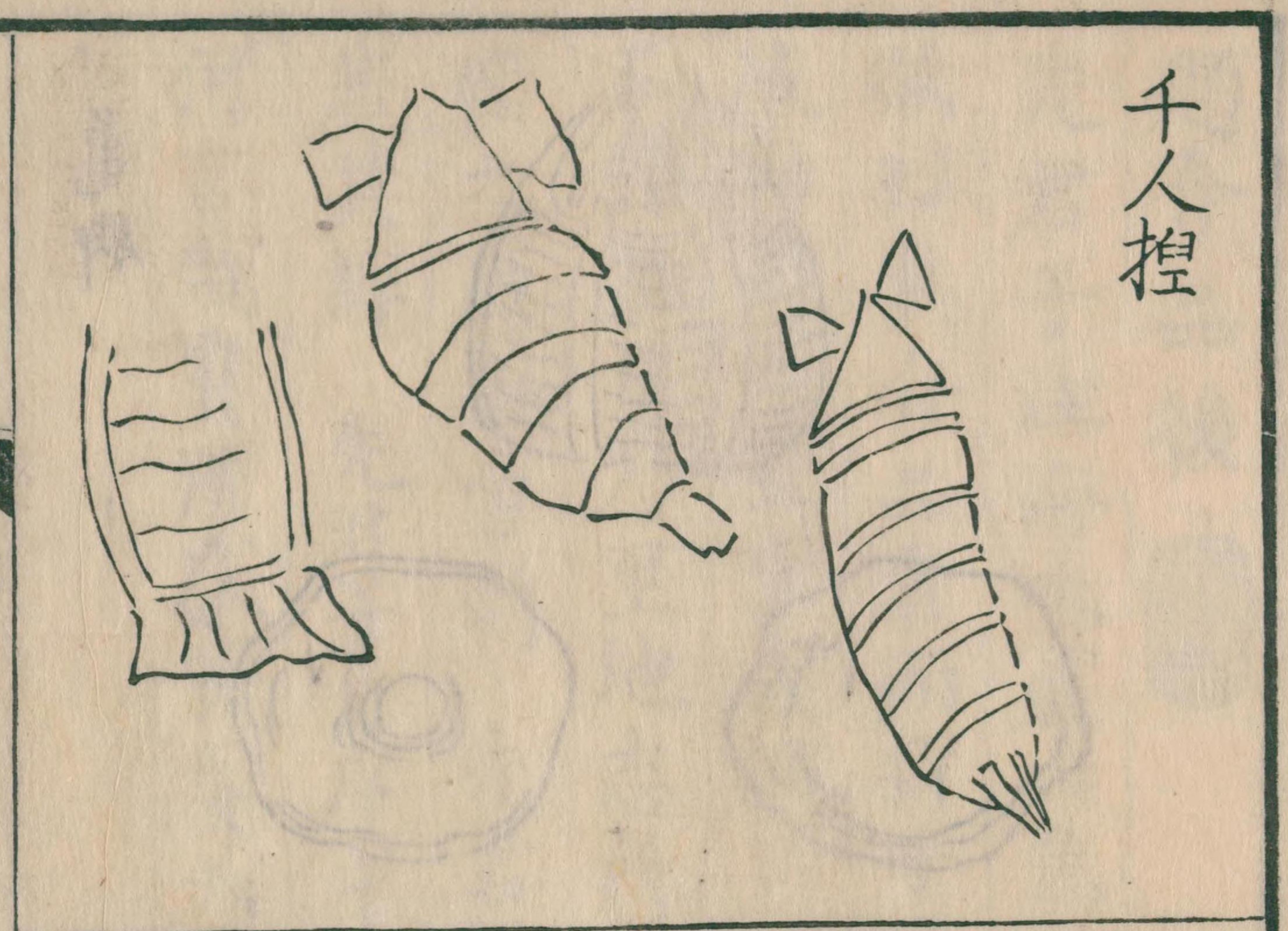
蛸枕



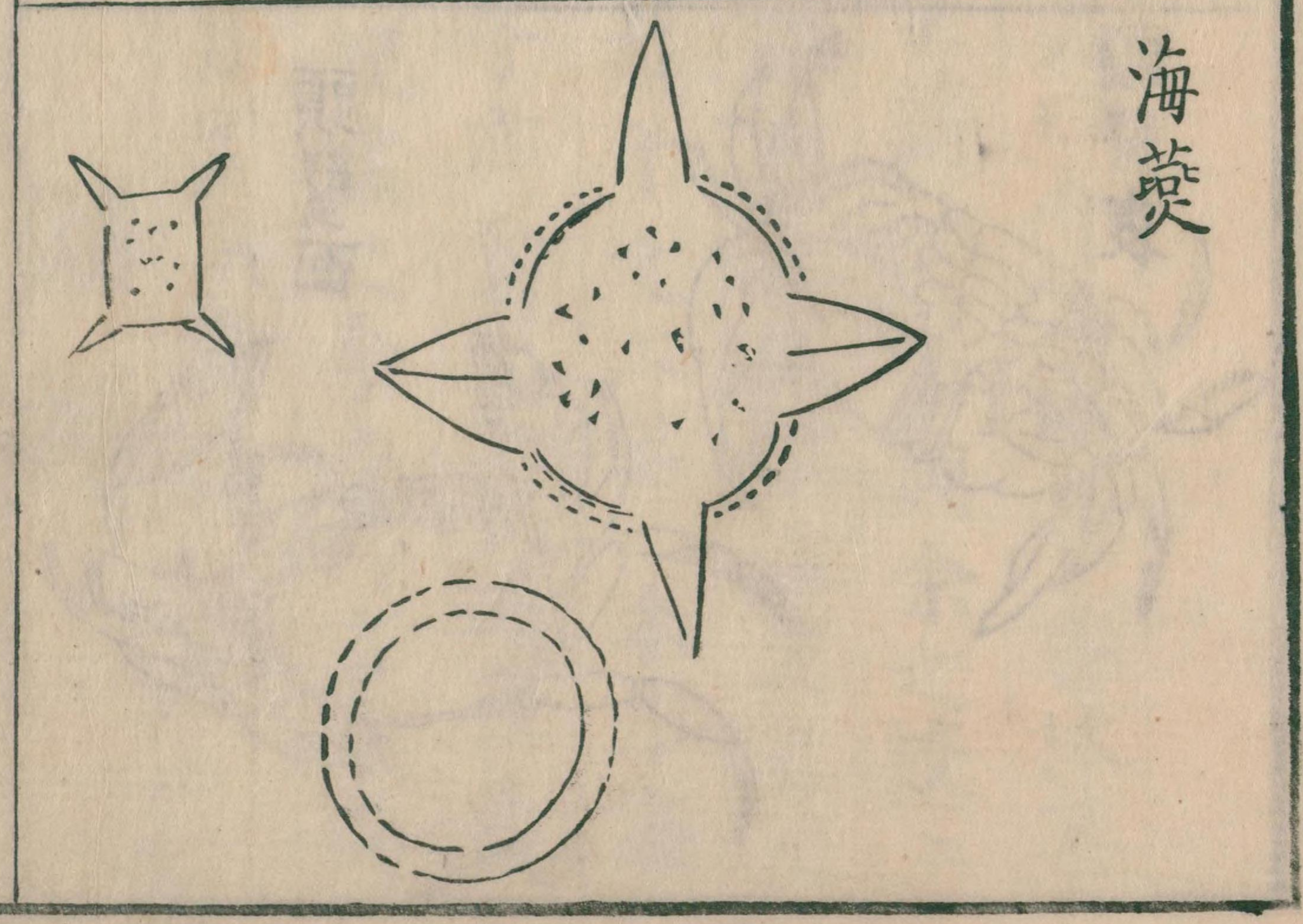
サシラ貝



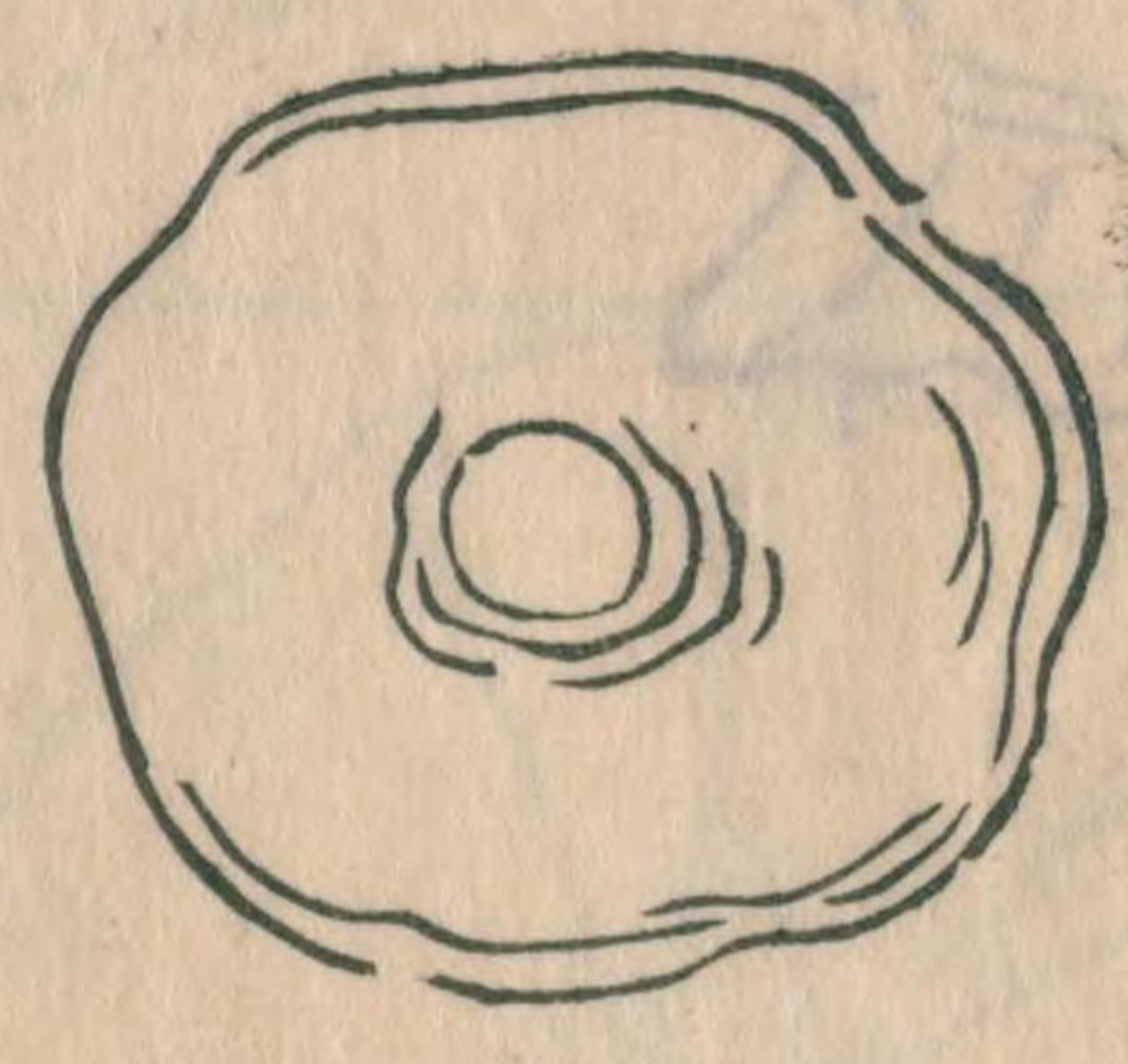
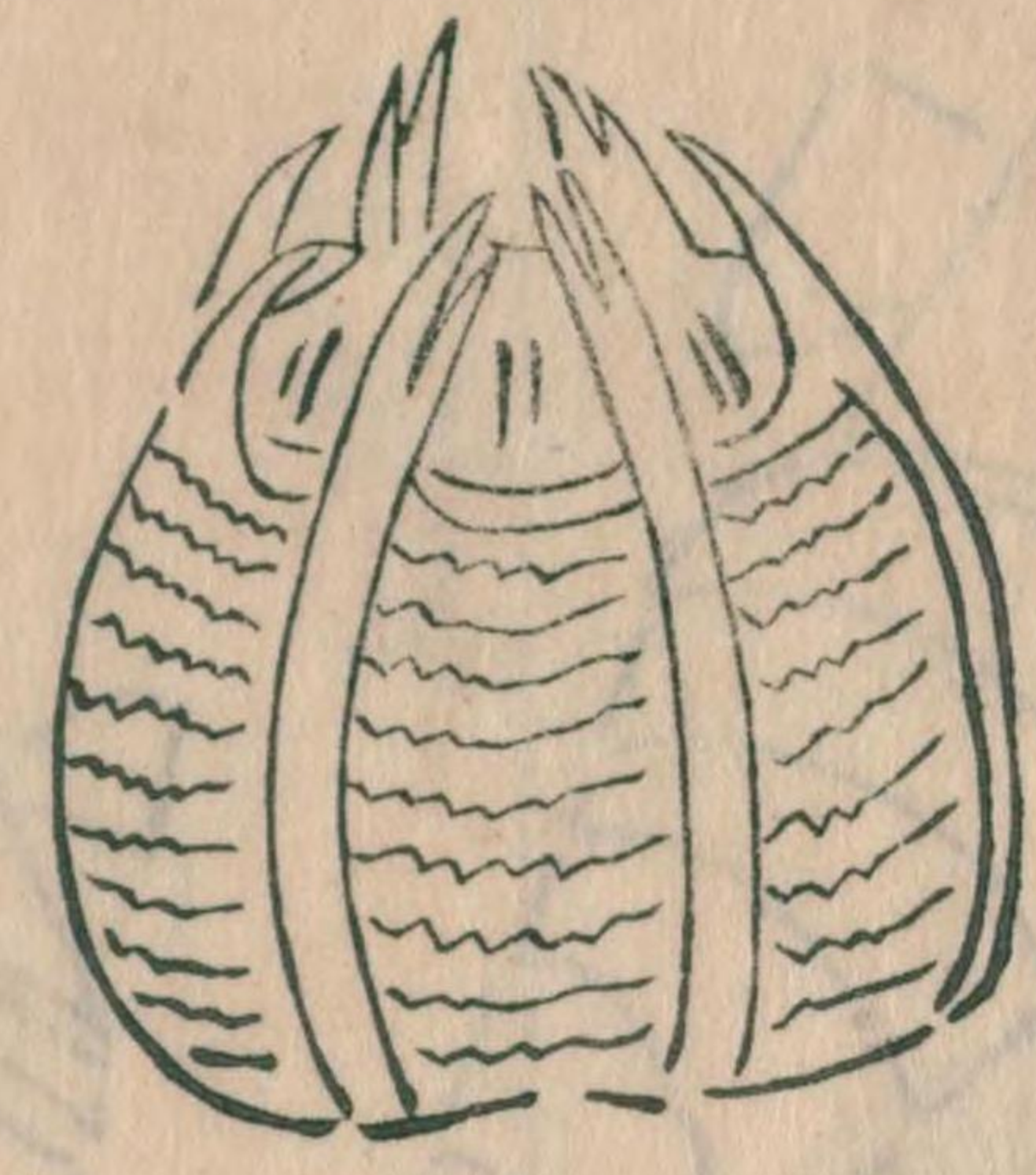
千人掙



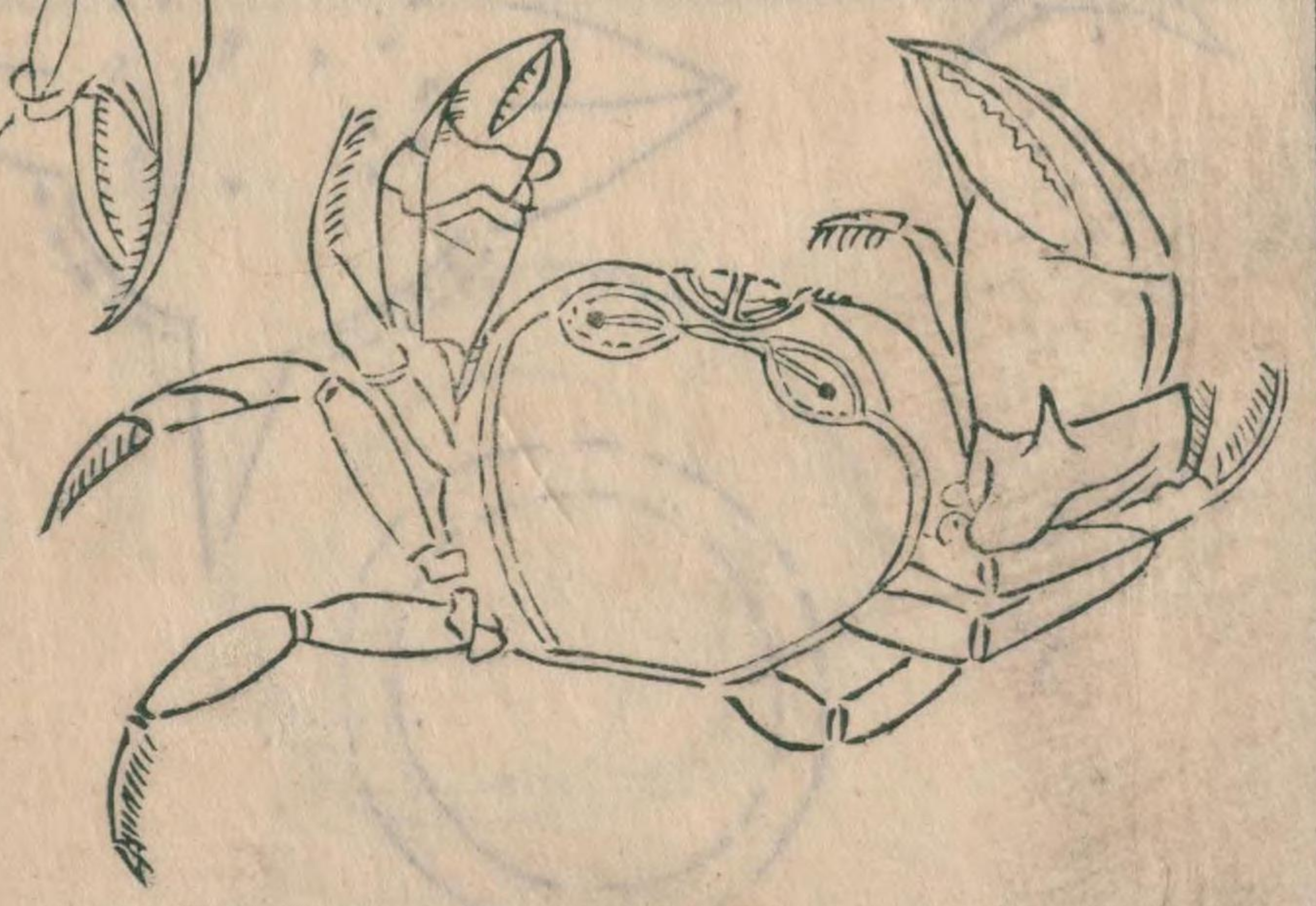
海葵



亀脚



頭蟹面



頭蟹腹



題介品後



先君子注海味名曰魚品曰介品頃者書林某
 欲梓其介品者而行于世請二三子與余之校
 成而授之蓋李氏綱目雖集大成惟注其有用
 不註無用乃至地志所載十之二三 本邦海
 錯之庶不啻則 先君子亦奚不裒而注哉
 若其詳 先君子自序中既盡之余尚何言哉尚
 何言哉寶曆戊寅夏六月男典謹識



7
291

男爵伊藤圭介先生自筆
AUTOGRAPH OF
BARON KEISUKE ITO.

了 怡顏齋介品
寶曆八年板
松岡五進著
介品略記
其國類記
粗

介品 卷之七

松岡先生著
用藥須知後編
全部四冊
近日出來

寶曆八年 戊寅 五月吉辰

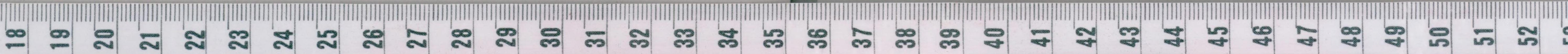
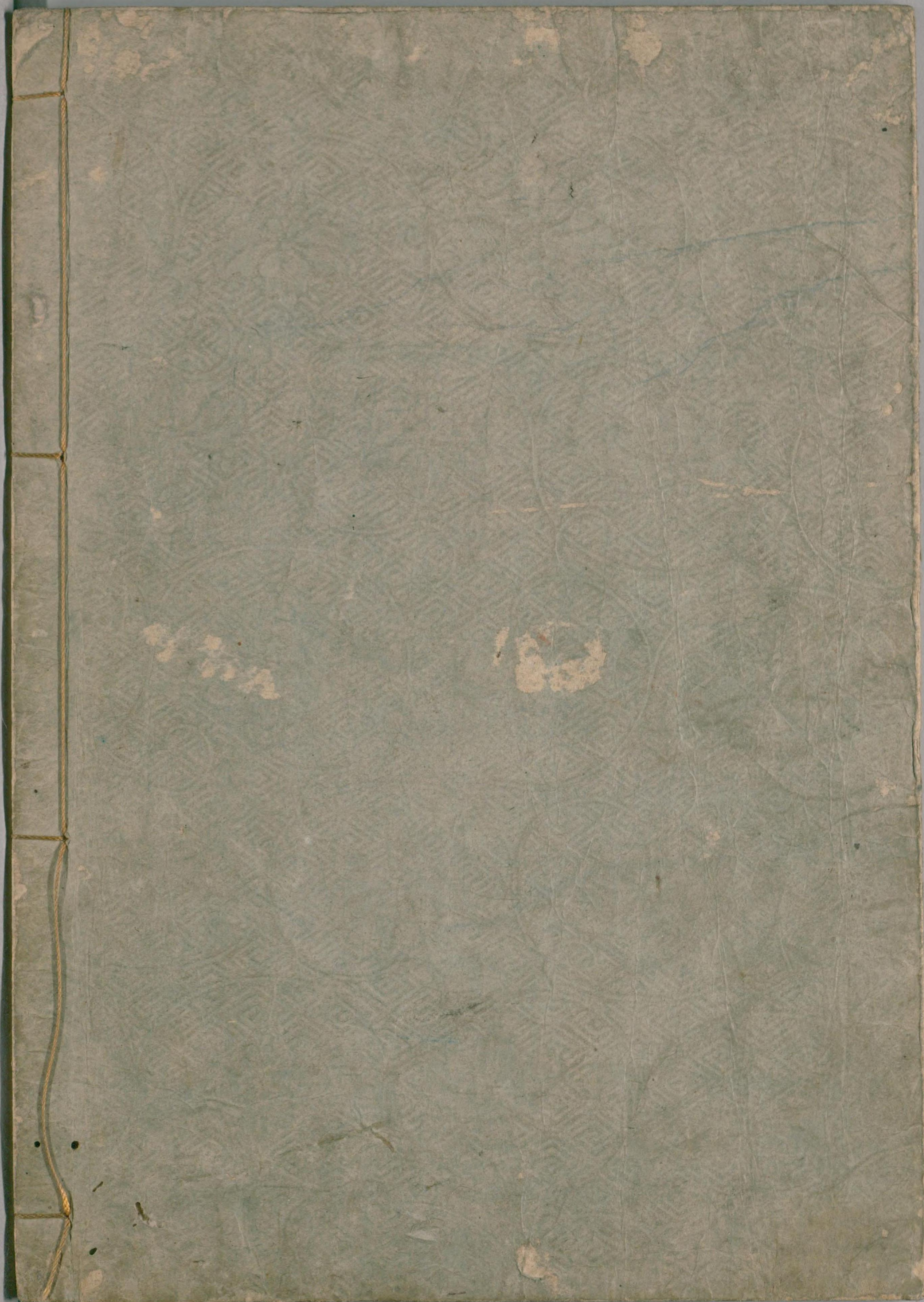
寺町通二條下町

皇都書林

野田彌兵衛

二條通富小路西七入町

野田藤八



国立国会図書館 タイトル『怡顔齋介品 2巻』 請求記号 特7-291

ガラス使用